OWNER'S MANUAL

HOME THEATER SYSTEM

Lifestyle® V20
Lifestyle® V30

取扱説明書

この度はボーズ Lifestyle® V20/Lifestyle® V30 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。また、必要なときにすぐご覧になれるように大切に保管しておくことをおすすめいたします。

※説明の便宜上、イラストは原型と異なる場合があります。

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示について

 警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

 注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

 ⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

 ●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

 △記号は行為を促す内容を告げるものです。（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

アンプ部について

	電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一、内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一、内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●電源ケーブルが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	水場での使用禁止	●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
		●乾電池は、充電しないでください。電池の破損、液もれにより、火災・感電の原因となります。
	使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
警告		●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
		●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		通風孔のある機器のみ ●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。 この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。
		●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。
		●電源ケーブルの上に重いものをのせたり、ケーブルが本機の下敷にならないようにしてください。ケーブルに傷がついて火災・感電の原因となります。 ●この機器の通風孔、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。 ●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合は火災・感電の原因となります。 ●この機器の上に、ろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因となります。

警告	分解禁止	●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。 ●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。
		●電源ケーブルを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して、火災・感電の原因となります。

注意	●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。 ●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。 ●電源ケーブルを熱器具に近づけないでください。ケーブルの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。 ●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。 ●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
	●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。 電池を使用する機器のみ ●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	●万一の事故防止のため、この機器を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてください。
	●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 ●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
	●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。
	●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。 ●電源プラグを抜くときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
	●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してから行ってください。ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	●シンナー、ベンジン、アルコール類などの揮発性の薬品やその他化学物質、クレンザーなどで製品をふかないでください。破損、変質、変色、塗料のはがれや表面に傷を付ける原因となります。またスプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

スピーカー部について

警告	●スピーカーコードの上に重いものをのせたり、コードが製品の下敷きにならないようにしてください。また、壁や棚などの間にはさみ込んだりしないでください。スピーカーコードを傷つけて火災の原因となります。
	●スピーカー内部に金属片や異物などを落とさないでください。ショートや発熱などを起こし、火災の原因となります。
	●スピーカーコードを熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災の原因となります。
	●スピーカーコードを人が通るところなど引っ掛かりやすい場所に這わせないでください。つまずいて転倒したり、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。
	●<本製品>を分解したり改造しないでください。破損や火災の原因となります。
	●熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには設置しないでください。そのような場所で使用しますと、火災の原因となります。

注意	●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。
	●スピーカーを高いところに設置される場合には、作業が不安定になりますので作業には十分ご注意ください。けがや事故の原因となります。
	●定格を超える入力を入れた状態や長時間音が歪んだ状態で使用しないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
	●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。
	●取付金具をご使用になる場合は、ご使用になるスピーカーに対応しているボーズ社製の金具をご使用ください。 他メーカーの金具や、対応外の金具を使用するとスピーカーの破損や落下のおそれがあります。
	●ポートの中に手や体の一部を入れないでください。けがの原因となります。
	●シンナー、ベンジン、アルコール類などの揮発性の薬品やその他化学物質、クレンザーなどで製品をふかないでください。破損、変質、変色、塗料のはがれや表面に傷を付ける原因となります。またスプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

Contents

ご使用の前に

Lifestyle® V20/Lifestyle® V30 (以 下 Lifestyle® V20/V30) は、HDMI(High-Definition Multimedia Interface) をはじめとした多彩な接続端子を装備しハイビジョンテレビなど様々な外部機器と組み合わせて 5.1ch ホームシアターシステムを構築します。Lifestyle® V20/V30 は、ご使用になるお部屋を最適なリスニング環境に調整する自動音場補正機能「アダプ®ト IQ」、モノラルやステレオ録音ソースでも 5.1 チャンネルで再生する Videostage5 デコーディング回路等、様々なボーズの独自技術が搭載されています。また、リモコン受光部も兼ね備えた独立した「表示パネル」を採用したことにより、接続端子を装備する「メディアセンター」は目立たない場所に収納することができ、インテリアを損なわないシンプルな設置が可能です。

Lifestyle® V20/V30 の特長

●小型高性能サテライトスピーカー

●高能率に重低音を再生するアクースティマスモジュール

● HDMI（入力２つ、出力１つ）をはじめとした多彩な接続端子を装備したメディアセンター

●「電源」「ソース選択」「ミュート」「音量調整」といった基本的な操作が可能な表示パネル

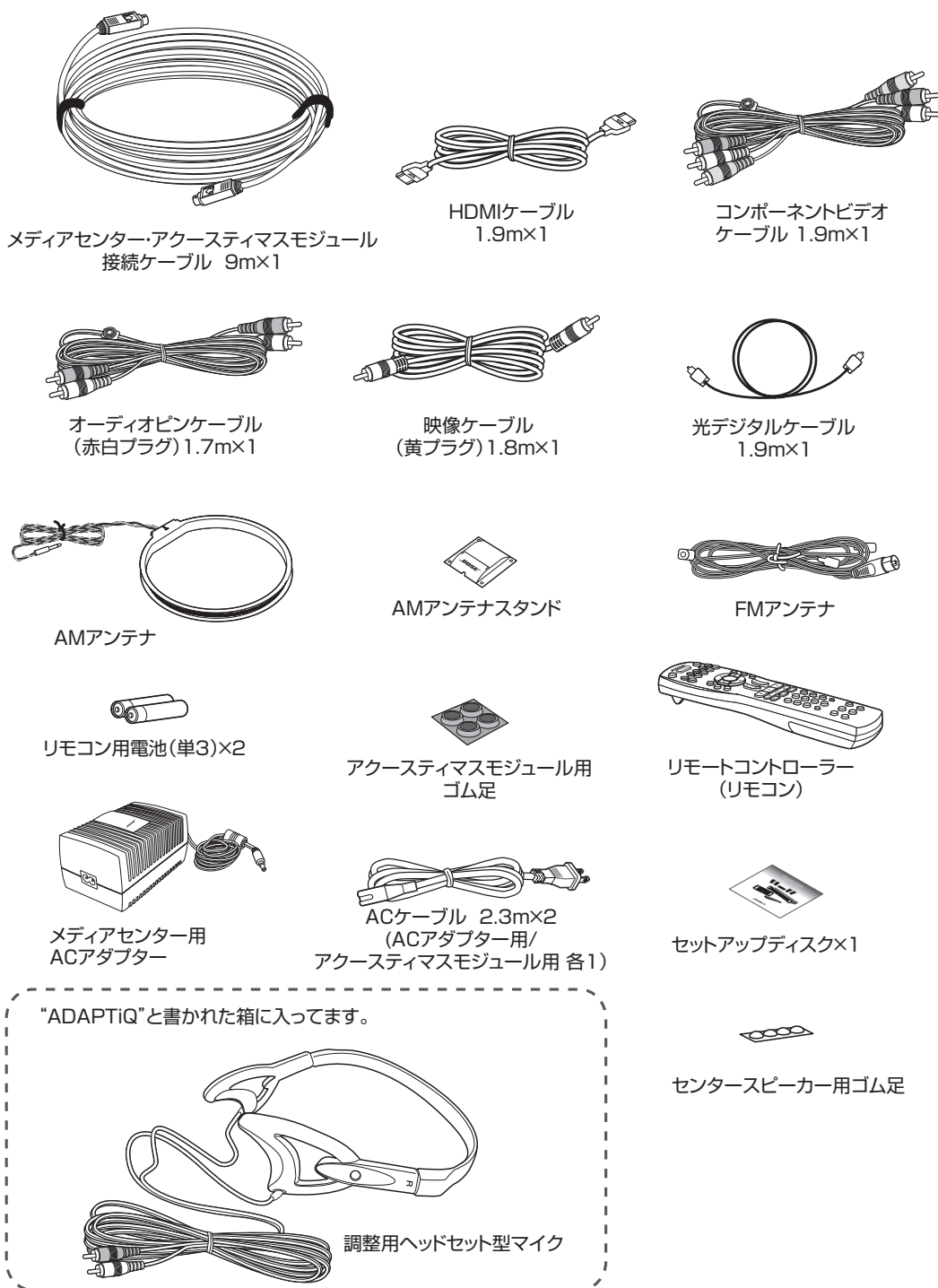
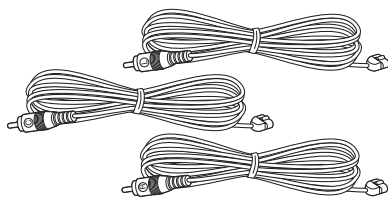
●ボタン表示をわかりやすく日本語で表示した赤外線リモコン

Lifestyle® V20/V30 が対応するデジタル音声は、ドルビーデジタル /DTS/MPEG-2 AAC/PCM2.0ch のビットストリーム信号です。以上に加えて、モノラルやステレオ録音ソースでも 5.1 チャンネルで再生するボーズ独自の「ボーズデジタル」デコーダーを搭載しています。

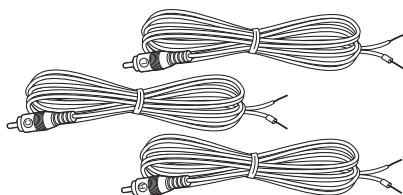
設置作業を始めます

箱や梱包材は、後日修理やメンテナンス等が必要になった場合のために保管しておくことをおすすめします。もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買い上げになった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。

⚠ 警告：製品を包んでいたビニール袋はかぶったり飲み込んだりして窒息する危険がないように、子供の手の届かない場所に保管するか、処分してください。

付属品の確認

付属品の確認

フロントスピーカー用コード
6m×3

サラウンドスピーカー用コード
15m×2

Lifestyle® V20

フロントスピーカー用コード
6m×3

サラウンドスピーカー用コード
15m×2

製品のゴム足について

- ゴム足の素材の性質から、設置面の塗料によっては、移行または汚染を示す可能性があります。事前にご確認のうえご使用ください。
- 付属のゴム足は高摩擦性を有している分、塗装面との接触面に密着しやすい性質を持っております。接触面の一部を剥がしてしまう可能性もありますので、事前にご確認のうえご使用ください。

設置方法

ここに示しました設置のガイドラインは、製品の性能を最大限に活かしてより広い空間印象でホームシアターをお楽しみ頂くためにおすすめするものです。ただし、これを参考にご自分のお好みやお部屋の状況に応じてより良い設置場所を探して頂いても構いません。また、「お部屋の状況」「スピーカーの位置」「リスナーの位置」に応じた最適な音響特性に調整するため、全てのスピーカーの設置と結線が終了した後に「アダプト IQ」による音場補正(28 ページ参照)をあわせて行うことをおすすめします。

⚠ 警告：スピーカーを設置する部分が滑りやすい材質の場合は、スピーカーが音を出したときの振動などで滑って落下する恐れがあります。このような場所に設置する場合は滑り落ちないように滑り止めの処置を行って設置してください。

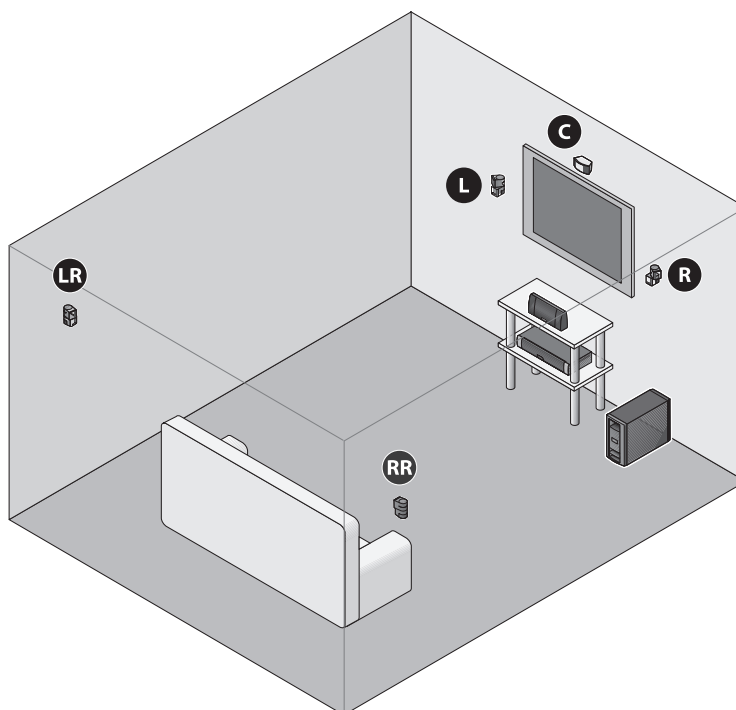
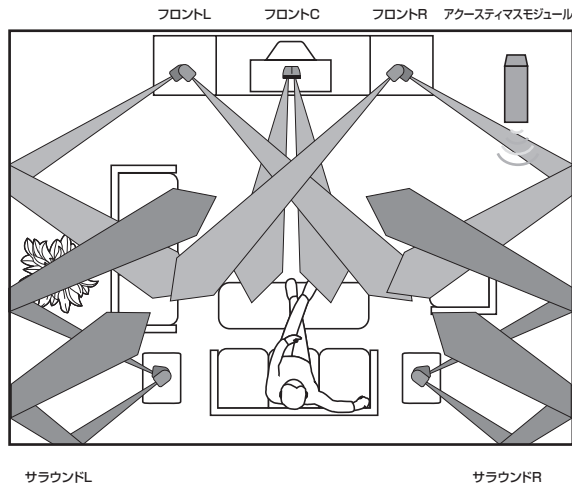
フロントスピーカーの設置位置について

音場イメージと視覚イメージが一致するように、フロント L/R（左右）のサテライトスピーカーから出る音声はテレビやスクリーンなどの画面の両端から聞こえるように設置します。

1. 大型テレビやスクリーンの場合は両脇にスピーカーを設置します。小さな画面のテレビの場合は､画面の端からそれぞれ 60cm 以内に設置することをおすすめします。アクースティマスモジュールとサテライトスピーカーの距離は、付属のスピーカーコード（6m）の届く範囲内に設置してください。サテライトスピーカーを設置する高さは画面中央になるように設置することをおすすめします。

2. サテライトスピーカーは、壁のある方向あるいは前方以外に向けて反射音を作り出します（9 ページ参照）。

♪：サテライトスピーカーは､テレビの近くに設置しても画面に影響が出ないような防磁型を採用しています。

♪：天井から吊り下げたりして、極端に画面の高さと違う場合は音像の移動感と映像の移動とが不自然になります。極端に画面とスピーカーの高さは変えないほうが良いでしょう。

Lifestyle® V20/V30

フロント C（センター）スピーカーの設置位置について

フロント C（センター）スピーカーから出る音声が、画面の中央から聞こえるように設置します。アクースティマスモジュールからの距離が付属のスピーカーコード（6m）の届く範囲内に設置してください。

♪: 天井から吊り下げたりして、極端に画面の高さと違う場合は音像の移動感と映像の移動とが不自然になります。極端に画面とスピーカーの高さは違えないほうが良いでしょう。

1. センタースピーカーをテレビの上または下のなるべく画面に近いところに置きます。下に置く場合はセンタースピーカーに直接テレビの重量がかからないようにしてください。

♪: センタースピーカーをテレビの上やラックの上にじかに置く場合は、安定性を良くするために付属のセンタースピーカー用ゴム足を使用してください。

♪: センタースピーカーは、テレビの近くに設置しても画面に影響が出ないような防磁型を採用しています。

2. テレビの上に置く場合は、なるべく画面の一番手前になるように置いてください（テレビの奥の方には置かないでください）。

サラウンドスピーカーの設置位置について

1. リアサラウンド用サテライトスピーカーは、なるべくリスナーの横か部屋の半分より後ろ側に設置します。高さは耳の高さかそれより高い位置に設置します。

2. サラウンド用サテライトスピーカーの向きは上図のように、できるだけスピーカーからの音を反射させ、耳に届くまでの音の道のりが長くなるようにします。スピーカーの向きがリスニングポジションに向いてなくてもアダプト IQ の実行で各スピーカーの特性は均一化されます。

アクースティマスモジュールの設置位置について

次のことを確認して設置してください。

・アクースティマスモジュールに接続するケーブル類が届く範囲内であること。

・設置する場所はテレビやフロントスピーカーが設置してあるのと同じ側であること（9 ページ参照）。

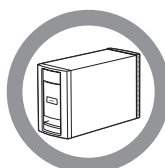
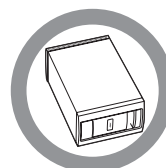
・アクースティマスモジュールは非防磁型のスピーカーなので、ブラウン管を使用しているテレビの場合は画面に影響を与えないように 60cm は離れていること（機種とブラウン管のサイズによって異なります）。

⚠ 注意：アクースティマスモジュールは防磁処理がされていません。そのため、ビデオテープ、カセットテープ、その他磁気による記録媒体を直接あるいは近接した場所に保管すると内容が消えたり、再生できなくなる場合があります。磁気による記録媒体をアクースティマスモジュールの近くには保管しないでください。

音の出る前面部分と後部スリットを塞がないようにしてください。

・アクースティマスモジュールは、テーブルの下や、ソファーの陰などに設置することができます。その際、家具やカーテンがアクースティマスモジュール後部の換気冷却用スリットを塞がないように、また前面および後面と壁までの距離を 5cm 以上離してください。

・アクースティマスモジュールは、音が出る前面部分が塞がれることを防ぎ、効率よく低音エネルギーが得られるように、前面部分を部屋に向けるか、壁に沿うように設置します。壁面に向ける場合は 5cm 以上離してください。

・アクースティマスモジュールは底面または、側面を下側にして設置することができます（下図参照）。

最適な設置
この置き方が内部を一番効率よく冷却できます。

可能な設置
側面を下にして設置することもできます。

禁止
後部アンプ部を下にして設置しないでください。

禁止
前面部を下にして設置しないでください。

禁止
逆さまに設置しないでください。

・置き方が決まったら、下の部分になるところの 4 すみに付属のゴム足をつけます。安定度を高め、床に傷が付くのを防ぎます。

⚠ 注意：アクースティマスモジュール後部のスリット部分からの換気で内部の機器の冷却を行っていますので、決してスリット部分を塞がないようにしてください。

メディアセンターと表示パネルの設置について

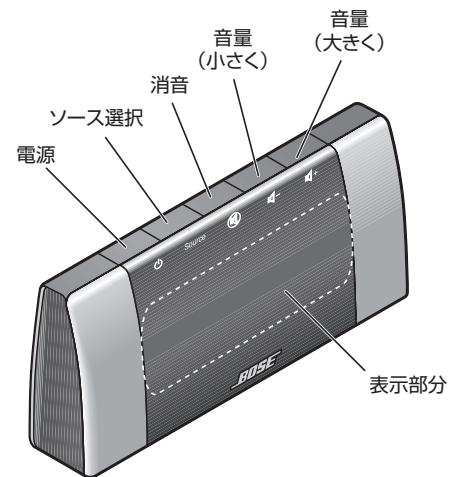
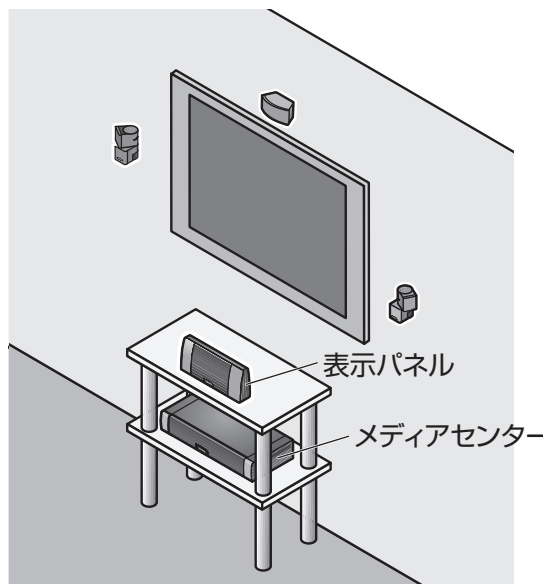
次のことを確認して設置してください。

・表示パネルにはリモコンの受光部があります。前面には邪魔になるような物を置かないでください。表示パネルは通常テレビ画面の近くの見やすい場所に置くことをおすすめします。表示部分もよく見えるように設置してください。

・接続する機器（テレビやビデオデッキ）との距離がケーブルの届く範囲であることを確認してください。もし、付属のケーブルで届かない場合は、市販のオーディオケーブルや映像ケーブルをご用意ください。

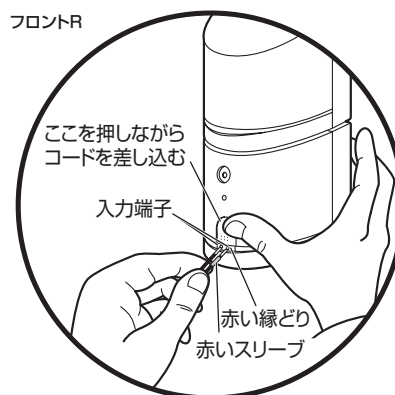
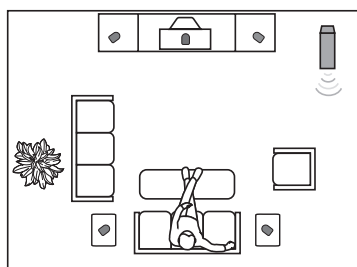
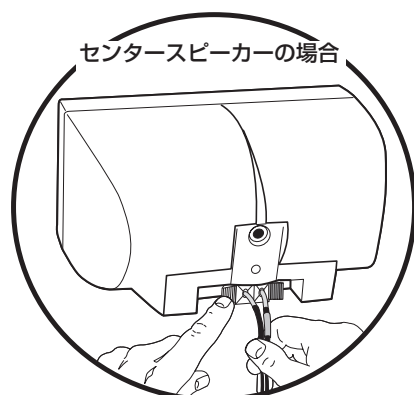
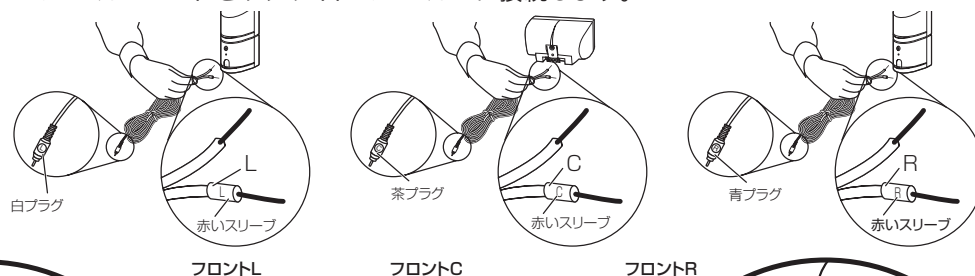
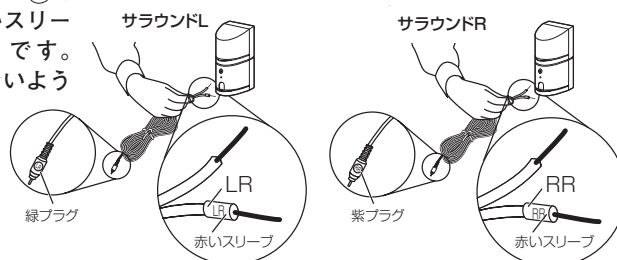
・メディアセンターとアクースティマスモジュールを接続するケーブルは約 9m あります。このケーブルの長さの範囲内に設置してください。

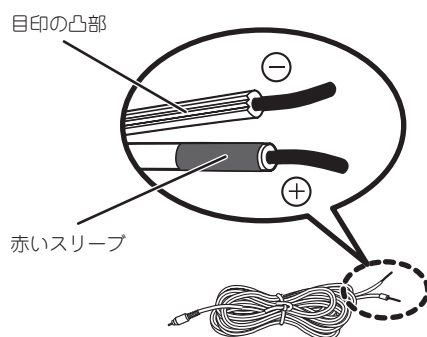
・表示パネルとメディアセンターを接続するケーブルは約 3.5m あります。このケーブルの長さの範囲内に設置してください。

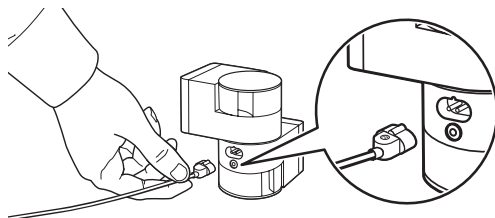
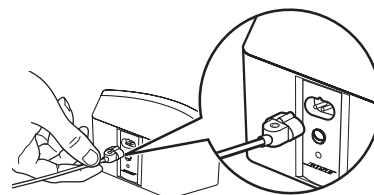
・すべての結線が終わるまで接続している機器の電源プラグはコンセントに差し込まないでください。

注意：メディアセンターの両側面部の換気冷却用スリット部分を塞がないようにしてください。メディアセンター両側面部を壁面等に向ける場合は、5cm 以上離してください。

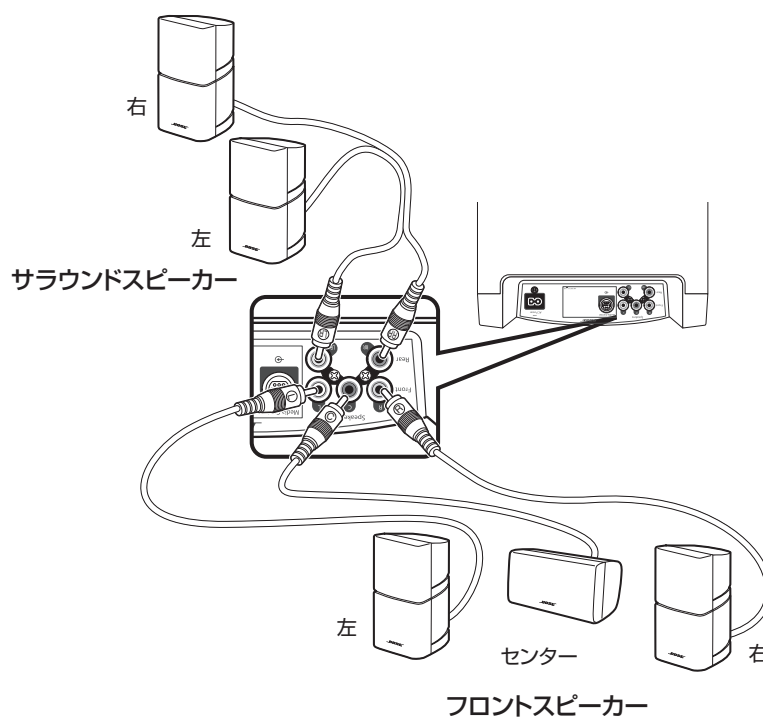
アクースティマスモジュールとサテライトスピーカーの結線

⚠ 注意：すべての結線が終わるまで接続している機器の電源プラグはコンセントに差し込まないでください。

・スピーカーコードをサテライトスピーカーに接続します。

スピーカーターミナルは赤が ⊕ 、黒が ⊖ です。コードは赤いスリーブがついている方が ⊕ です。コードの ⊕ ⊖ を間違えないように注意してください。

4個のサテライトスピーカーを全て同じように接続します。

※赤いスリーブが付いている方のコードをスピーカーの背面にある入力端子のうち赤い縁どりがある方に差し込みます。

♪：スピーカー側は、赤いスリーブが付いている方が⊕になります。スリーブが取れてしまったり、コードを短くしてご使用になる場合は、図のようにコードに凸がある方が⊖になりますのでコードの凸を目印にしてください。

Lifestyle® V30 の場合

サテライトスピーカー

センタースピーカー

- 青プラグのコードは右フロントスピーカーにつないでください。
- 茶プラグのコードはセンタースピーカーにつないでください。
- 白プラグのコードは左フロントスピーカーにつないでください。
- 紫プラグのコードは右サラウンドスピーカーにつないでください。
- 緑プラグのコードは左サラウンドスピーカーにつないでください。

・スピーカーコードのピンプラグを確実にアクースティマスモジュールのジャックに差し込みます。

アクースティマスモジュールとメディアセンターの接続

付属のメディアセンター・アクースティマスモジュール接続ケーブルを使って、メディアセンターとアクースティマスモジュールを接続します。

1. コネクターの片側を平らな面を上にしてメディアセンター背面の ‘ベースモジュール’ と書いてあるジャックに差し込みます。

2. もう片側のコネクターをアクースティマスモジュールの ‘Media Center’ と書いてあるジャックに差し込みます。

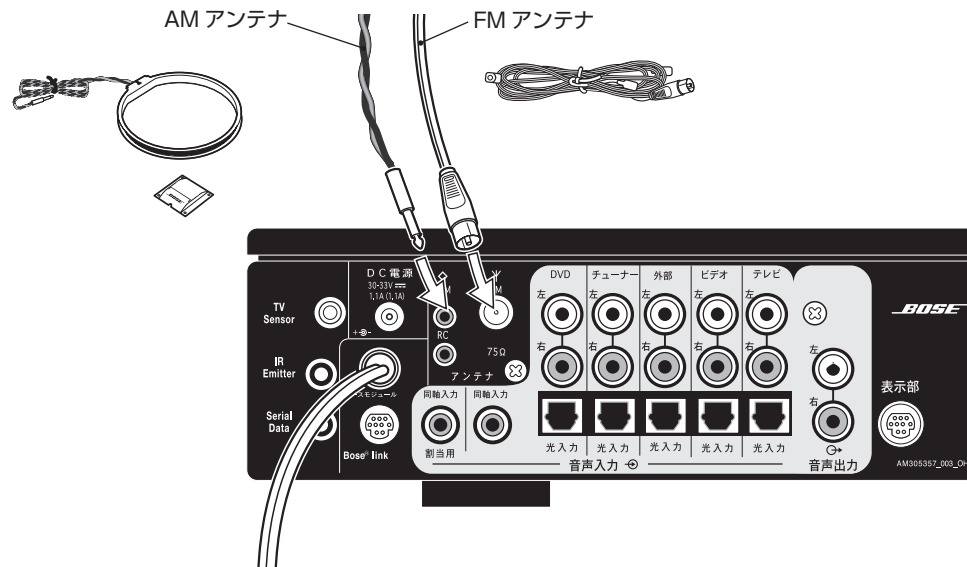
ヘッドホンの使い方について

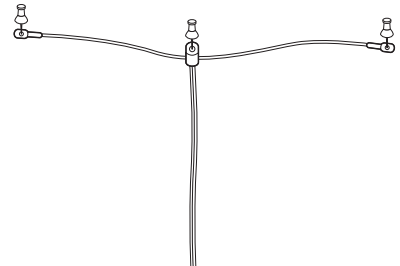
市販のヘッドホンで音楽を聴くには、メディアセンターの右側にあるステレオミニヘッドホンジャックを使用します。このジャックにヘッドホンプラグを差し込んでください。ヘッドホンを接続すると、自動的にスピーカーからの音が止まります。

⚠ 注意：ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大音量で長時間続けて聴くと聴力に悪い影響を与えることがあります。

付属アンテナの接続

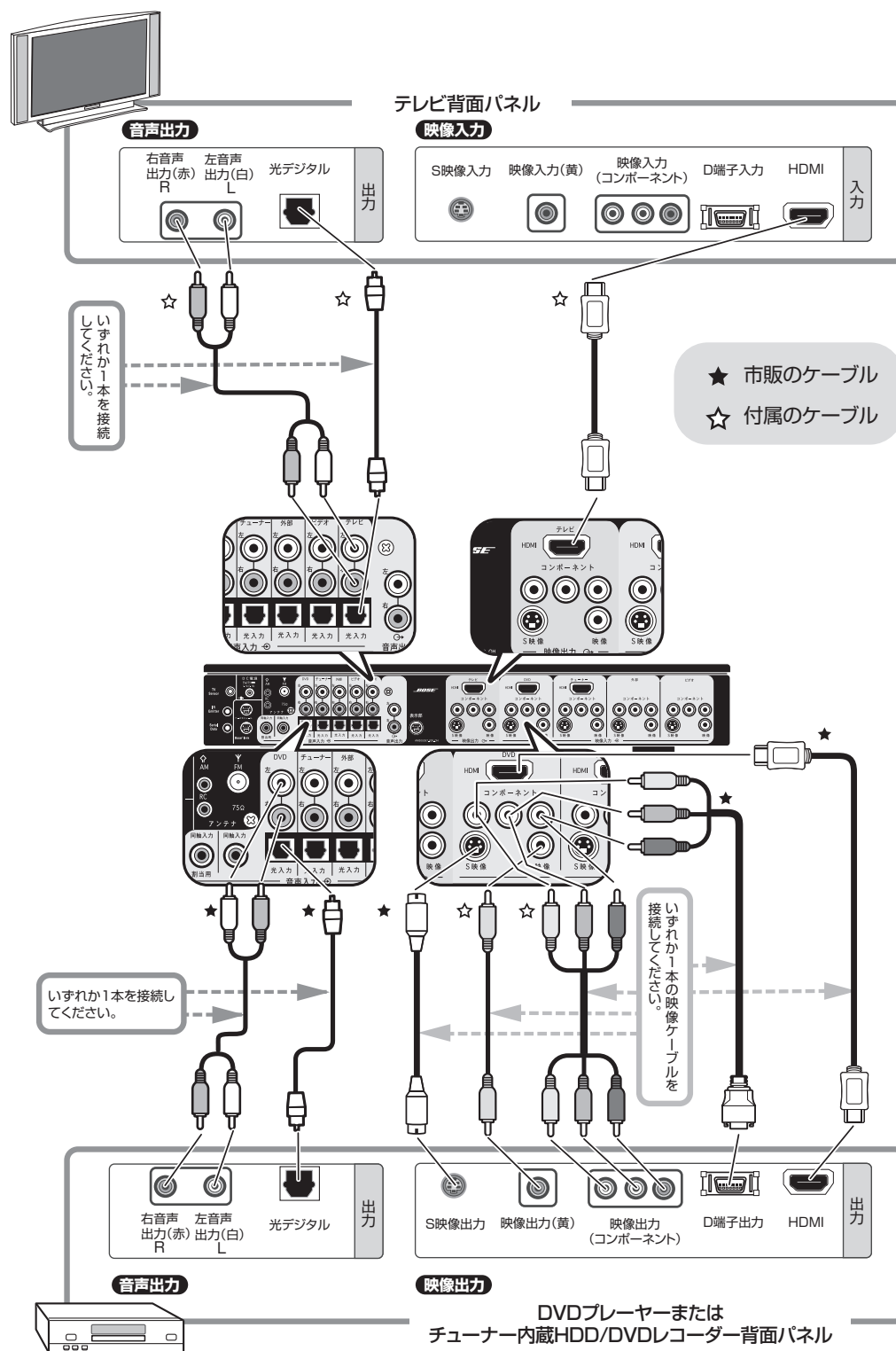
メディアセンター背面に AM と FM のアンテナ接続ジャックがあります。アンテナ線は丸めたりせず、必ずのばした状態でご使用ください。

♪: **室外アンテナをご使用になる時**
電波の状況などは、地域によってさまざまですので、お近くの電気店などにご相談ください。また、安全のためにも専門の業者にご相談ください。

FM アンテナの接続

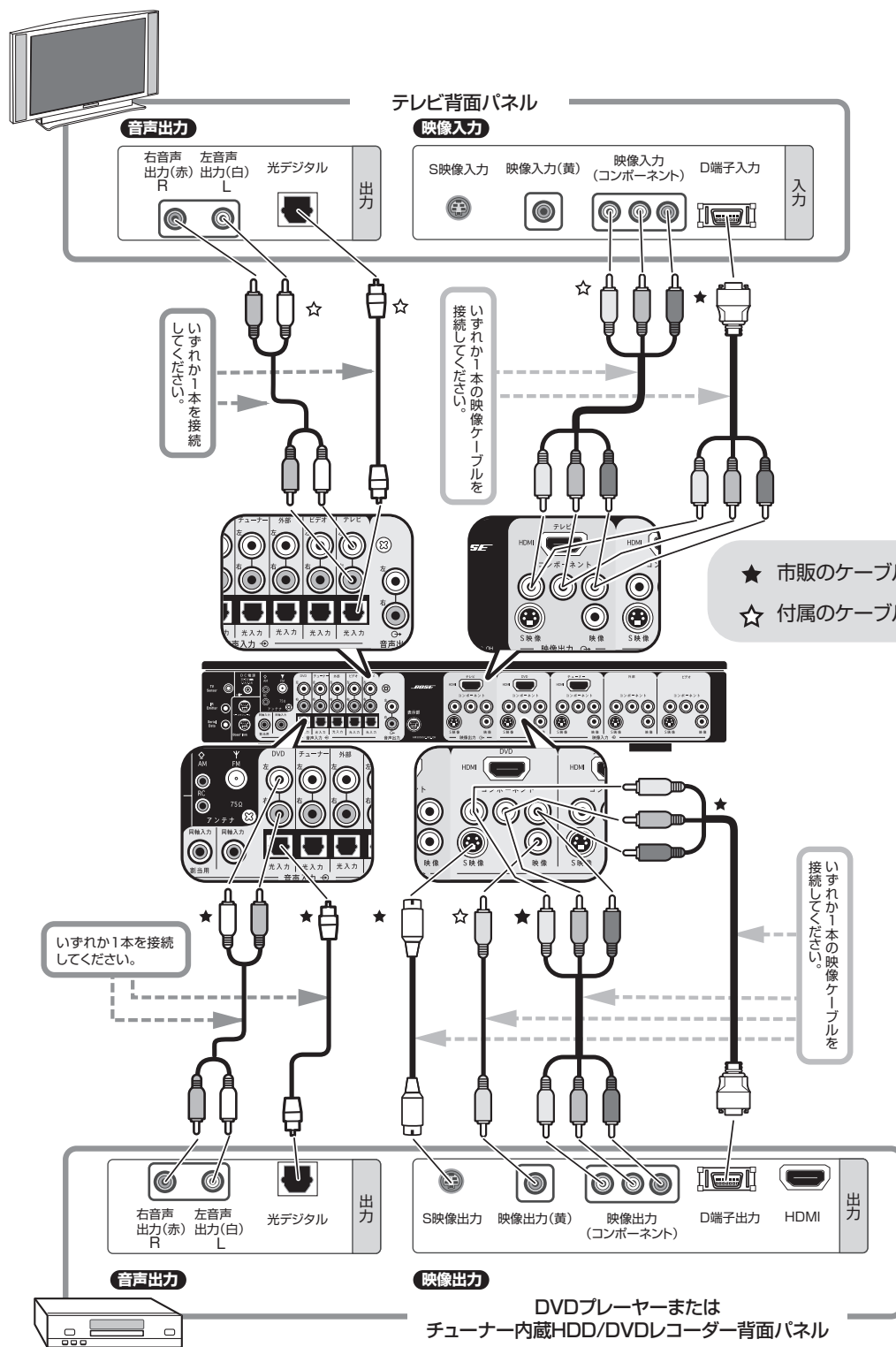
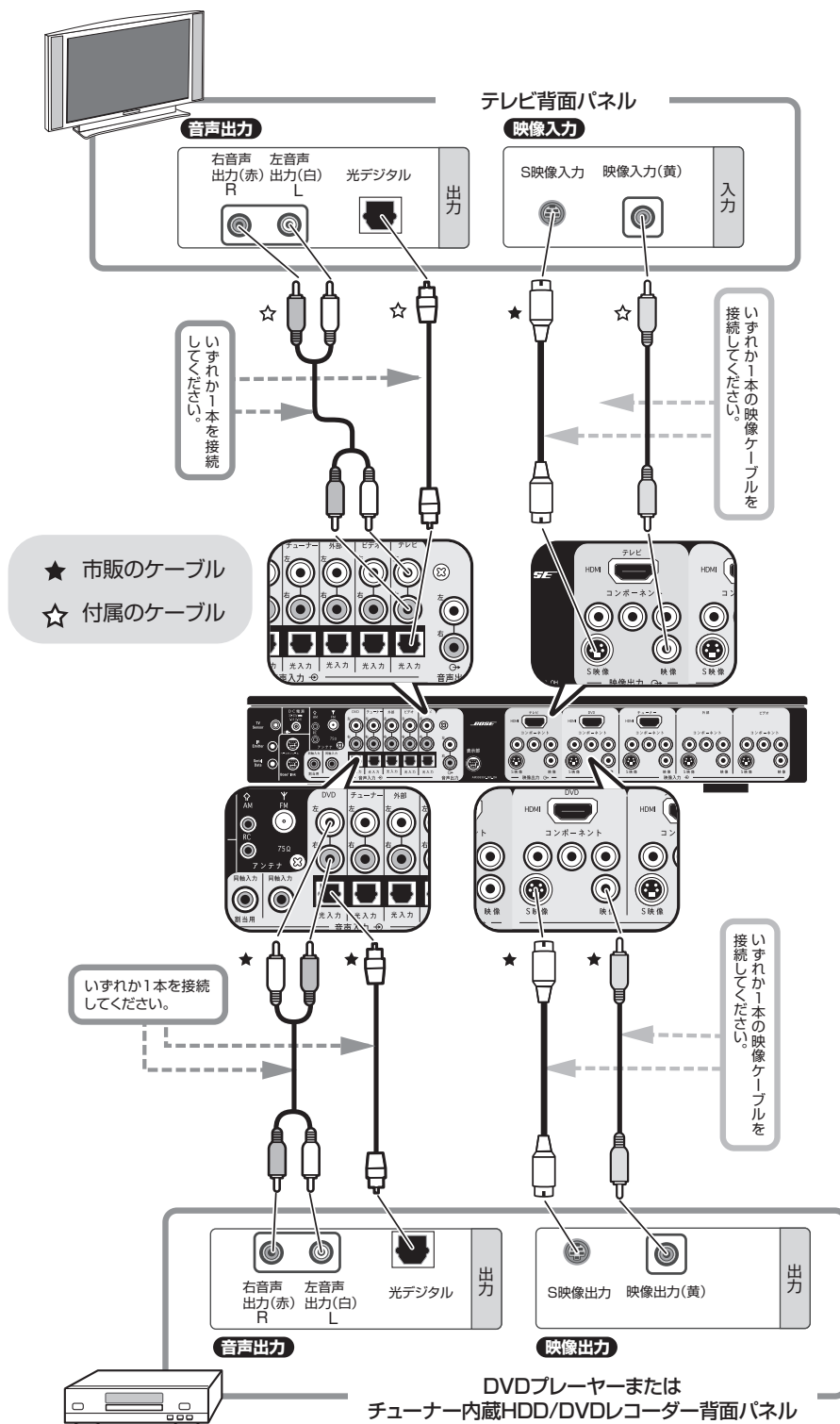
1. メディアセンターの FM アンテナジャックに付属の FM アンテナのプラグを奥までしっかり差し込みます。
2. アンテナアームを広げます。アンテナの向きや位置をいろいろ試してみて最良の受信状態が得られる位置を探してください。また、アンテナはメディアセンターや他の機器からできるだけ離して設置してください。

AM アンテナの接続

♪: 壁にアンテナを取り付ける際は、アンテナに同封してある説明書にしたがって作業を行ってください。

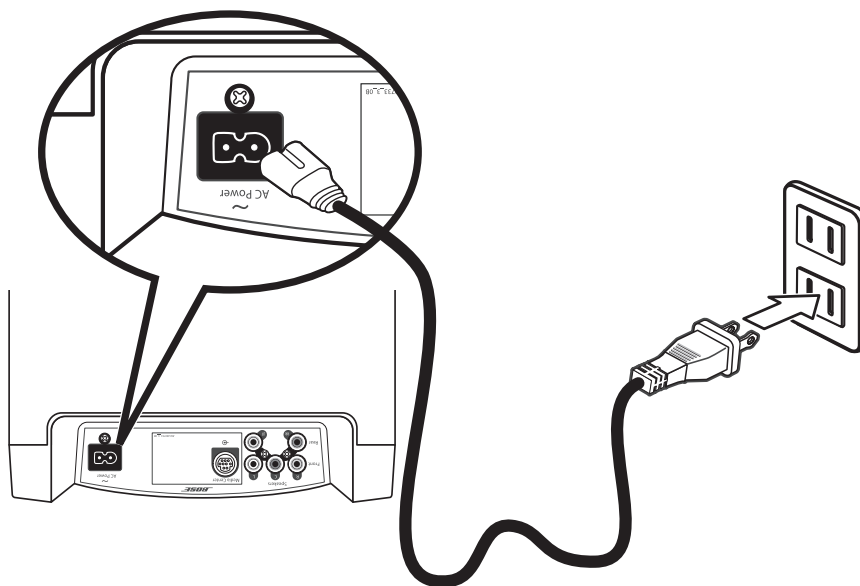
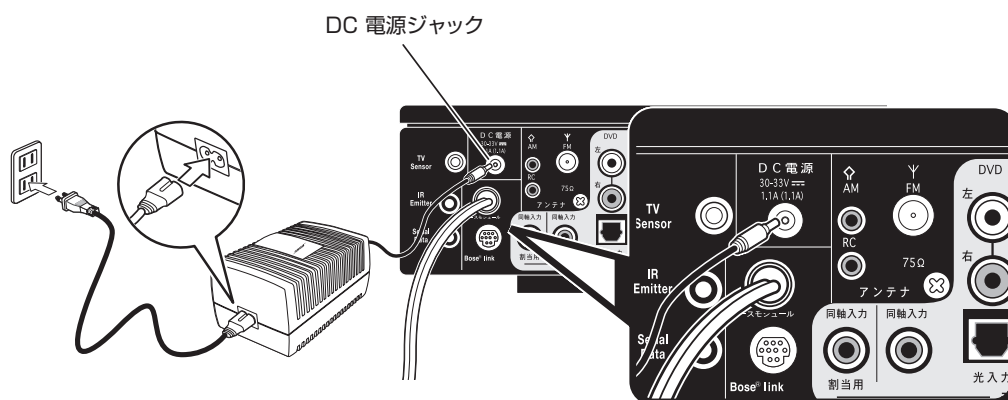
1. メディアセンターの AM アンテナジャックに付属の AM アンテナのプラグを奥までしっかり差し込みます。
2. ループアンテナを付属の AM アンテナスタンドに立てる場合は、アンテナに付属の説明書をご覧ください。
3. アンテナのループをできるだけメディアセンターや他の電気器具から離してください。少なくともメディアセンターからは 50cm 以上、アクースティマスモジュールからは 60cm 以上離して設置してください。アンテナの向きや位置をいろいろ試してみて最良の受信状態が得られる位置を探してください。窓際の方が感度が上がる場合が多いようです。メディアセンターやアクースティマスモジュールに近づけると受信感度が低下する場合があります。

接続例 1　テレビに HDMI 端子がある場合

♪: 本機と外部機器およびテレビが HDMI 接続されている場合、テレビの電源がオフまたはスタンバイ状態では、FM/AM 以外の音源ソースは本機から音声は再生されません。

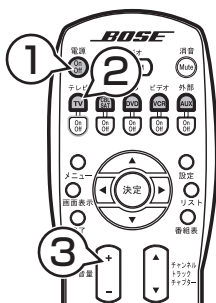
♪: 本機と外部機器およびテレビが HDMI 接続されている場合、システム設定画面、ソース（音源）設定画面をテレビに表示している間、本機から音声は再生されません。

接続例 2　テレビに HDMI 端子がなく、D 端子、コンポーネント端子がある場合

接続例 3　テレビに HDMI 端子、D 端子、コンポーネント端子がない場合

電源を接続します

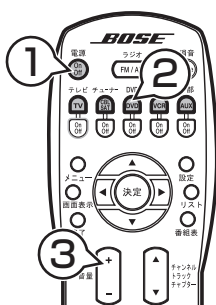
2 本の電源コードを接続します。

1. AC ケーブルの片側をアクースティマスモジュールの電源ジャックにしっかり奥まで差し込みます。反対側を壁のコンセントに差し込みます。

2. メディアセンター用 AC アダプターの丸い小さなプラグを、メディアセンター背面の DC 電源ジャックにしっかり差し込みます。

3. もう 1 本の AC ケーブルの片側を AC アダプターの差し込み口にしっかり差し込み、反対側の AC プラグを壁のコンセントに差し込みます。

基本操作

テレビを見るとき

●テレビの操作はその機器付属のリモコンで行います。

1. **電源ボタン**を押して Lifestyle® V20/V30 システムの電源を入れます。
2. **TV・ソースボタン**を押します。
3. 音量を調整します。
   ※テレビ画面のサイズによって設定を変える必要がある場合は、31 ページを参照してください。

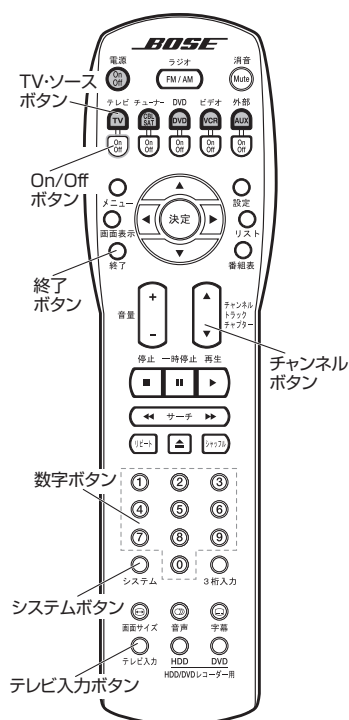
DVDを見るとき

●DVDの操作はその機器付属のリモコンで行います。

1. **電源ボタン**を押して Lifestyle® V20/V30 システムの電源を入れます。
2. **DVD・ソースボタン**を押します。
3. 音量を調整します。

外部機器を付属のリモコンで操作するには

Lifestyle® V20/V30 システム付属のリモコンに巻末の設定コード番号を入力することで、外部の機器を操作することができます。
※機種によっては、操作できないもの、または、限られた機能でしか操作できないものもあります。

例：テレビを操作できるように設定する場合

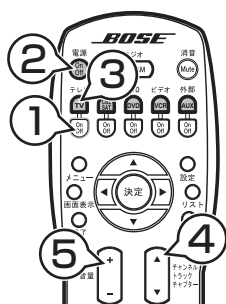
1. 巻末の設定コード表の製品カテゴリーの「TV」からテレビの設定コード番号を探します。同じメーカーのコード番号が複数ある場合は初めのものから順番に試していきます。
   ※他の機器の設定をする場合は、設定する機器それぞれのカテゴリーから設定コード番号を探してください。
2. 5 個のソースボタンが点灯するまで、**システムボタン**を長押しします。
3. **TV・ソースボタン**を押します。TV・ソースボタン以外のソースボタンが消灯します。
   ※ DVD の場合は、DVD・ソースボタンを押します。
4. **1**. で調べた 5 桁の設定コード番号をリモコンの**数字ボタン**を使って入力します。入力し終わると、**TV・ソースボタン** (他の機器の場合はそれぞれのソースボタン) が素早く 2 回点滅して消灯します。
5. **終了ボタン**を押します。

6. リモコンをテレビのリモコン信号受光部に向けて、TV・ソースボタン下の **On/Off ボタン**を押してテレビの電源が On/Off できるか、**テレビ入力ボタン**を押してテレビの入力が切り替えできるか、**チャンネルボタン**や**数字ボタン**を押してテレビのチャンネルが切り替えられるか確認してください。このとき、これらの操作ができない場合は同じメーカーの次のコード番号を選んで、手順「2」からやり直してください。

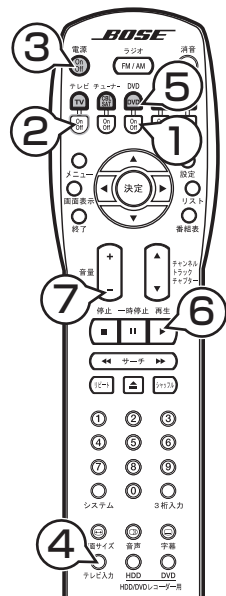
※チャンネルの数字が 2 桁以上の場合は、数字ボタンで入力できないことがあります。

♪注意： 設定コードの入力作業を 30 秒以上中断したり、無効のコード番号を入力すると、5 個のソースボタンが素早く 3 回点滅して、入力モードが終了します。また、コードの入力中にリモコンの終了ボタンを押した時も、入力モードが終了します。このときは、手順「2」からやり直してください。

リモコンの使い方（付属のリモコンで外部機器の操作）

♪注意：リモコンの送信部を操作したい外部の機器のリモコン信号受光部へ確実に向けて操作してください。また、リモコンの送信部と操作したい外部の機器のリモコン信号受光部の間に障害物がないことを確認してください。

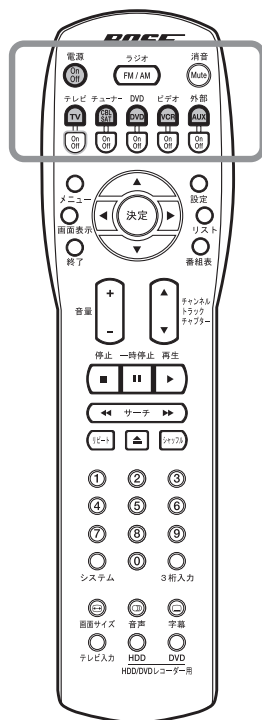
テレビを見るとき

1. テレビ・ソースボタン下の **On/Off ボタン**を押してテレビの電源を入れます。
2. **電源ボタン**を押して Lifestyle® V20/V30 システムの電源を入れます。
3. **テレビ・ソースボタン**を押してテレビの操作をできるようにします。
4. テレビのチャンネルを切り替えて、見たい番組に合わせます (24 ページ参照)。
5. 音量を調整します。

※テレビ画面のサイズによって設定を変える必要がある場合は、31 ページを参照してください。

DVDを見るとき

1. DVD・ソースボタン下の **On/Off ボタン**を押して DVD の電源を入れます。
2. テレビ・ソースボタン下の **On/Off ボタン**を押してテレビの電源を入れます。
3. **電源ボタン**を押して Lifestyle® V20/V30 システムの電源を入れます。
4. **テレビ入力ボタン**を押して、テレビの入力を本機を接続した入力に切り替えます。
5. **DVD・ソースボタン**を押して、DVD の操作をできるようにします。
6. DVD を操作して見たい番組を再生します (23 ～ 25 ページ参照)。
7. 音量を調整します。

リモコンの設定時に、DVD・ソースボタンにDVDを設定してください。

Lifestyle® V20/V30 システムの使い方

電源

Lifestyle® V20/V30 の電源を On/Off します。

消音

ミュート（一時的消音）の On/Off を行います。

リモコンで外部の機器の操作を行う前に

リモコンで外部の機器を操作できるようにするには、必ず、リモコンの設定 (20 ～ 21 ページ参照) を行ってください。設定すると、Lifestyle® V20/V30 のリモコンで、テレビのチャンネルを切り替えたり、DVD プレーヤーを操作したりすることができるようになります。

ソースと入力の選択

ラジオ

ラジオを聞くときに押します。

テレビ

TV：音源としてメディアセンターの音声入力 [テレビ] 端子に接続してある機器（通常はテレビ）を選択します。リモコンの設定（20 ～ 21 ページ参照）でこのボタンを使ってお使いのテレビの設定コード番号をリモコン設定した場合、このボタンを押すと Lifestyle® V20/V30 のリモコンでテレビのチャンネル切替などの操作ができます※1。
On/Off：テレビの電源を On/Off します※1。

♪ 注意：このリモコンでコントロールできないテレビもあります。

チューナー

CBL-SAT：音源としてメディアセンターの音声入力 [チューナー] 端子に接続してある機器（通常はケーブルテレビホームターミナルやデジタルチューナーなど）を選択します。リモコンの設定（20 ～ 21 ページ参照）でこのボタンを使ってお使いのデジタルチューナーなどの設定コード番号をリモコン設定した場合、このボタンを押すと Lifestyle® V20/V30 のリモコンでそれらの機器の操作ができます※1。
On/Off：上記の機器の電源を On/Off します※1。

♪ 注意：このリモコンでコントロールできないケーブルテレビホームターミナルやデジタルチューナーなどもあります。

DVD

DVD：音源としてメディアセンターの音声入力 [DVD] 端子に接続してある機器（通常は DVD プレーヤーや HDD/DVD レコーダーなど）を選択します。リモコンの設定（20 ～ 21 ページ参照）でこのボタンを使ってお使いの DVD プレーヤーなどの設定コード番号をリモコン設定した場合、このボタンを押すと Lifestyle® V20/V30 のリモコンでそれらの機器の操作ができます※1。
On/Off：上記の機器の電源を On/Off します※1。

♪ 注意：このリモコンでコントロールできない DVD プレーヤーや HDD/DVD レコーダーなどもあります。

ビデオ

VCR：音源としてメディアセンターの音声入力 [ビデオ] 端子に接続してある機器（通常はビデオデッキ）を選択します。リモコンの設定（20 ～ 21 ページ参照）でこのボタンを使ってお使いのビデオデッキの設定コード番号をリモコン設定した場合、このボタンを押すと Lifestyle® V20/V30 のリモコンでビデオデッキの操作ができます※1。
On/Off：上記の機器の電源を On/Off します※1。

♪ 注意：このリモコンでコントロールできないビデオデッキもあります。

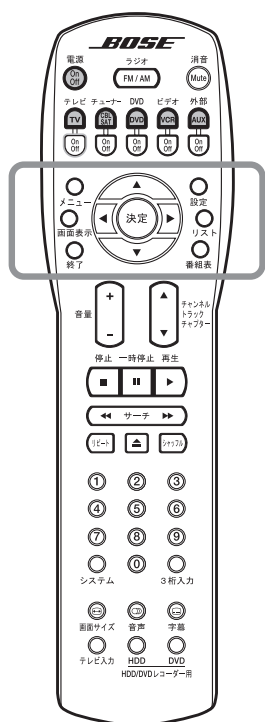
AUX：音源としてメディアセンターの音声入力 [外部] 端子に接続してある機器を選択します。リモコンの設定（20 ～ 21 ページ参照）でこのボタンを使ってお使いの機器の設定コード番号をリモコン設定した場合、このボタンを押すとLifestyle® V20/V30 のリモコンでその機器の操作ができます※1。
On/Off：上記の機器の電源を On/Off します※1。

♪ 注意：このリモコンでコントロールできない機器もあります。

※１ Lifestyle® V20/V30 のリモコンでテレビやビデオデッキなどの外部機器を操作するには、リモコンにそれらの機器のコードを登録する必要があります（20 ～ 21 ページ参照）。

メニューおよびナビゲーション

♪：このページで説明されているボタンは一度に 1 つの機器しか操作できません。例えば、リモコンで TV が選択されているときに DVD プレーヤーやデジタルチューナーを操作することはできません。

♪：このページで説明されているボタンの機能はお使いの機器の種類・メーカーによって以下の説明と異なる機能として働く場合や、ボタンの機能自体が有効にならない場合があります。

メニュー：現在選択されているソースのメニュー画面を表示します。※2

画面表示：現在選択されているソース機器の操作内容や状態などを確認します。※2

終了：現在選択されているソースのシステム／設定画面を消す時に使用します。
また、電子番組表などを画面から消す時にも使用します。※2

設定：現在選択されているソースの設定画面を表示します（33 ページ参照）。

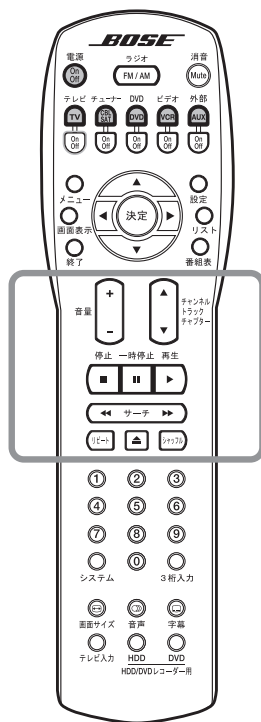
リスト：現在選択されているソース機器（レコーダー等）の録画済番組リストを表示します。※2

番組表：電子番組表を表示します。※2

他のボタンと一緒に使用して、各種設定や選択などを確定させるときに使用したり,選択項目にさらに詳細設定（サブメニュー）がある場合はサブメニューを表示します。※2

・表示画面において上下左右の項目へ移動するときに使用します※2。
・上下カーソルは、FM/AM ラジオの周波数調整にも使用します（26 ページ参照）。

※２ お使いの外部機器にそれらの機能がある場合にのみ有効です。また、お使いの機器にそれらの機能があっても Lifestyle® V20/V30 のリモコンで操作できない場合もあります。

再生機能など

♪注意： Lifestyle® V20/V30 のリモコンでテレビやデッキなどの外部機器を操作するにはリモコンにそれらの機器コードを登録する必要があります（20 ～ 21 ページ参照）。

♪注意： このページと次のページで説明されているボタンの多くは一度に一つの機器しか操作できません。例えばリモコンでチューナーが選択されている時はデジタルチューナーのチャンネル切替などは可能ですが、DVD の再生やチャプターの送り・戻しなどは出来ません。この場合は必ず一度 **DVD ソースボタン**を押してから操作してください。

♪注意： このページと次のページで説明されているボタンの機能は、お使いの機器の種類・メーカーによっては以下の説明と異なる機能として働く場合や、ボタンの機能自体が有効にならない場合があります。

チャンネル
トラック
チャプター

テレビやデジタルチューナーなどのチャンネルを選択したり、CD のトラックや DVD のチャプターを進めたり戻したりするときに使用します※。

音量

Lifestyle® V20/V30 システムのスピーカーからの音量を調整するときに使用します。
＋を押すと音量が上がります。ミュートが働いているときはこのボタンで解除します。
–を押すと音量が下がります。ミュートが働いているときはミュートが働いたままシステムの音量を下げます。

♪注意： **音量ボタン**及び**消音ボタン**（22 ページ）はどのソースが選択されていても常に Lifestyle® V20/V30 システムのスピーカーからの音量を調整します。これらのボタンでテレビや外部機器のスピーカーの音量を調整することは出来ません。

停止

DVD、CD、VCR、DVR の再生を停止します。※

一時停止

このボタンを押すと DVD、CD、VCR、DVR の再生をポーズ（一時停止）します。※

再生

このボタンを押すと DVD、CD、VCR、DVR の再生を始めます。※

サーチ

ラジオ選局時は受信状況のよい放送局を自動で選ぶ時に使用します（26 ページ参照）。
DVD のチャプターや CD のトラック、VCR、DVR を早戻し、早送りするときに使用します。※

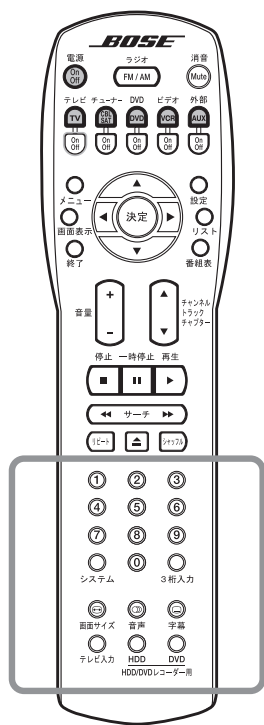
リピート

CD、DVD のリピート再生をします。もう一度押すとリピート再生がキャンセルされます。※

DVD、CD のディスクトレーを開閉します。※

シャッフル

CD のシャッフル再生をします。もう一度押すとシャッフル再生がキャンセルされます。※

※お使いの外部機器にそれらの機能がある場合のみ有効です。また、お使いの機器にそれらの機能があっても Lifestyle® V20/V30 のリモコンで操作できない場合もあります。

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⓪

リモコン設定時（20 ～ 21 ページ参照）メーカーの設定コード番号入力に使用します。DVD のチャプターや CD のトラックを直接呼び出したり、テレビのチャンネルを選択したり、項目番号の入力などにも使用できます※。

システム

システム設定画面を表示します（29 ページ参照）。画面を消すときは、終了ボタンを押します。リモコンの設定コードを入力するときは長押しします（20 ページ参照）。

3桁入力

地上デジタル放送などの受信において、3 桁チャンネル番号を入力するときに使用します※。

画面サイズ

本機とワイド画面テレビを HDMI で接続している時、画面に表示される映像の画面サイズや画角を変更します。

音声

DVD 再生時に、再生される音声トラックを切り替えるときに使用します※。

字幕

DVD 再生時に、字幕の表示 / 切替を行います※。

テレビ入力

テレビの外部入力を切り替えるときに押します※。

HDD　DVD
HDD/DVDレコーダー用

HDD/DVD レコーダー使用時に、再生ドライブを HDD と DVD で切り替えます※。

※お使いの外部機器にそれらの機能がある場合のみ有効です。また、お使いの機器にそれらの機能があっても Lifestyle® V20/V30 のリモコンで操作できない場合もあります。

ラジオの使い方

リモコンの**ラジオ** ボタンを押してラジオモードを選んでください。もし、システムの電源が切れていても、自動的に電源が入り、最後に聞いていた放送局を受信します。

選局のしかた

バンド（AM または FM）を換えたい	リモコンの**ラジオ** ボタンを押して希望のバンドを選んでください。
受信状況の良い放送局を自動で選びたい	選局をはじめるまでリモコンの ボタンを押してください。選局を始めたら指を離します。自動的に放送局を選局します。すぐに選局を止めたいときはトンとリモコンの ボタンを一回だけ押してください。自動で選んだ後、すぐにまた自動選局をさせたい場合はリモコンの ボタンを一回だけ押してください。
手動で選局したい	リモコンの ボタンを押して周波数をかえてください。

システムが AM あるいは FM モードのときに、利用可能なオプションの設定をソース（音源）設定画面で変更できます。ソース（音源）設定画面はリモコンの**設定** ボタンを押して画面に表示してください（33 ページ参照）。

プリセットチューニングのために放送局を登録します

よく聞く放送局をすぐに呼び出せるようにあらかじめ記憶させておくことができます。
プリセットできる放送局は FM 、AM それぞれ 20 局です。

放送局をプリセットするには※

※オンスクリーンディスプレイ画面が開いている場合は、リモコンの**終了** **ボタン**を押して閉じてから行ってください。

プリセットしたいチャンネル番号の数字をリモコンの数字ボタンを使って入力します。

●チャンネル番号 1 ～ 9 にプリセットしたい場合

プリセットしたいチャンネルの**数字ボタン**をしばらく押し続けると、表示パネルに **“PRESET:##　SET”** と表示されてプリセットされます。

●チャンネル番号 10 ～ 20 にプリセットしたい場合

初めに十の位の**数字ボタン**を押して、すぐに一の位の**数字ボタン**を押し続けると、表示パネルに **“PRESET:##　SET”** と表示されてプリセットされます。

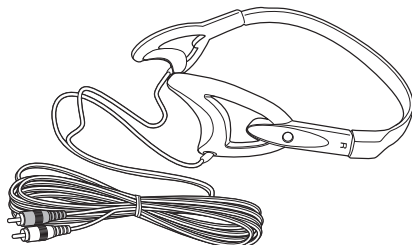
登録してある放送局の削除のしかた※

削除したい放送局を呼び出し、リモコンの数字ボタンの “0” を約 2 秒間長押しすると表示パネルのディスプレイに **“PRESET:##　ERASED”** が表示されてプリセットが削除されます。

登録してある放送局をリモコンで呼び出す方法

・聞きたい放送局が登録してあるプリセット番号の**数字ボタン**を短く 1 回押します。
・またはリモコンの **ボタン**を押してプリセット番号を選びます。

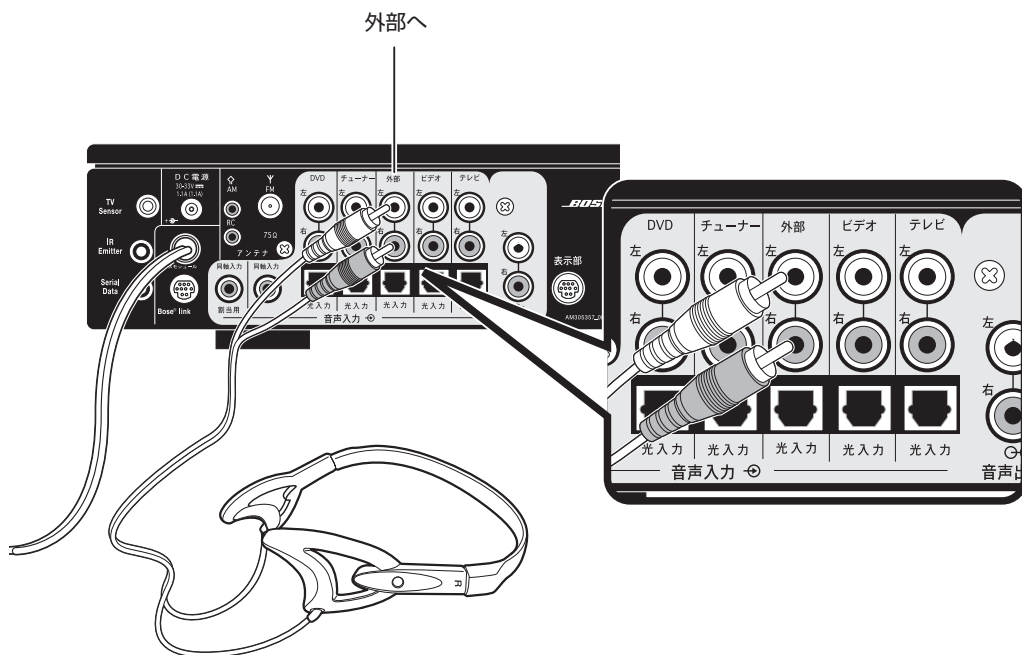
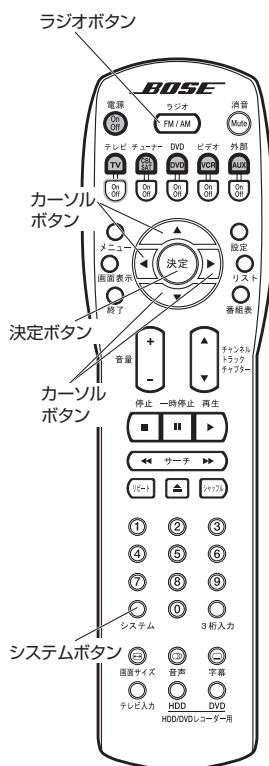
調整用ヘッドセット型マイクを接続します

付属品の中の小箱に専用のヘッドセット型マイクが入っています。

・セットアップディスクを使ってスピーカーの結線が正しくされているかをチェックします。

・「アダプト IQ（ADAPTiQ）システム」によってご使用になる部屋の音響特性に合わせて Lifestyle® V20/V30 を調整します（28 ページ参照）。

・ヘッドセット型マイクは「アダプト IQ」による部屋の音響特性を調整するときに使用します。このヘッドセット型マイクは、調整作業中でテレビ画面に指示が出たときにメディアセンター背面の外部音声入力端子に接続してください。

⚠ 注意：このヘッドセットは、システムの電源を入れた状態で接続したり、外したりできるように設計されています。
他の機器を接続したり外したりする場合は、必ずテレビと Lifestyle® V20/V30 の電源を切ってから行ってください。

♪：・調整の作業が完了するまで、約 10 分かかります。調整の最中に雑音が入ると正しく調整できませんので、誰からも迷惑をかけられたり、かけなくてもすむ状況のときに行うことをおすすめします。
・付属のセットアップディスクでスピーカーの結線をチェックする場合には、本機と外部機器はデジタル音声接続を用い、ディスクに収録されているドルビーデジタル 5.1ch の音声を再生してください。

「アダプト IQ」による音場補正（システム調整）

システム調整の開始

1. テレビの電源を入れてください。また、テレビの入力切り替えが正しく行われていることを確認してください。
2. リモコンのラジオボタンを押します。
3. リモコンのシステムボタンを押してシステムメニュー画面を呼び出します。
4. メニュー項目の「音声設定」をリモコンの◀、▶ **ボタン**を使って選びます。
5. ▼**ボタン**で「アダプト IQ」を選びます。
6. ▶ **ボタン**を押してカーソルを右に移動させてから▼、▲ **ボタン**で「実行」を選び続いて決定ボタンを押して調整を開始します。
7. テレビの画面に表示されるガイダンスにしたがって操作してください。指示にしたがってシステム調整を行えば、お聴きになる場所での音響特性が最適な状態になるように調整されます。

・別のお部屋に Lifestyle® V20/V30 を設置しなおしたり、お部屋の中の模様替えを行ったときなどはお部屋の音響特性が変わってしまいます。そのような場合は、必ず“「アダプト IQ」による音場補正（システム調整）”を行って音響特性を再調整してください。

♪： ヘッドセット型マイクは、後日使用できるように安全な場所に保管しておいてください。

♪： 調整の作業が完了するまで、約 10 分かかります。調整の最中に雑音が入ると正しく調整できませんので、誰からも迷惑をかけられたり、かけなくてもすむ状況のときに行うことをおすすめします。

システム設定画面を表示するには

リモコンの**システム** ボタンを押して、システム設定の画面を呼び出し、各設定を行うことができます。このとき、必ずテレビの電源を入れてメディアセンターからの映像入力をテレビ側で選択しておいてください。各設定の選択にはリモコンの **ボタン**を押します。このとき、各項目が強調されて表示されます。決定するときはリモコンの**決定** **ボタン**を押してください。
システム設定画面をテレビ画面から消すにはリモコンの**終了** **ボタン**を押してください。

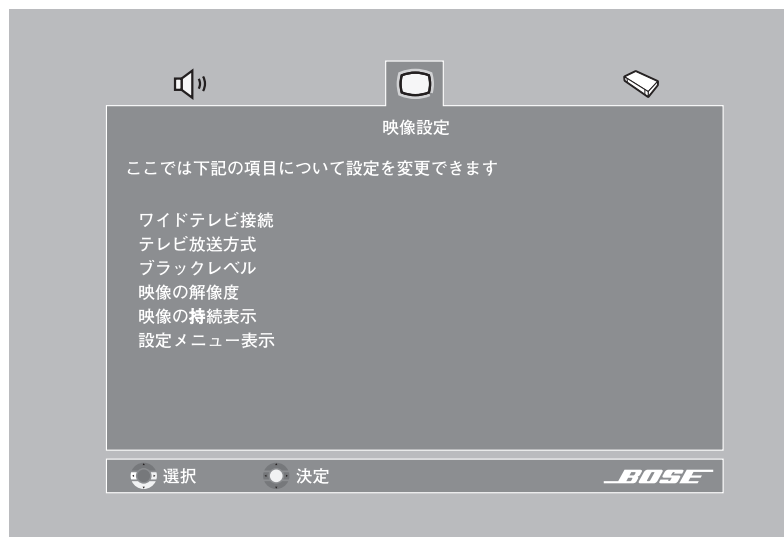
♪注意：本機と外部機器及びテレビが HDMI 接続されている場合、システム設定画面、ソース（音源）設定画面を表示中は、本機から音声は再生されません。

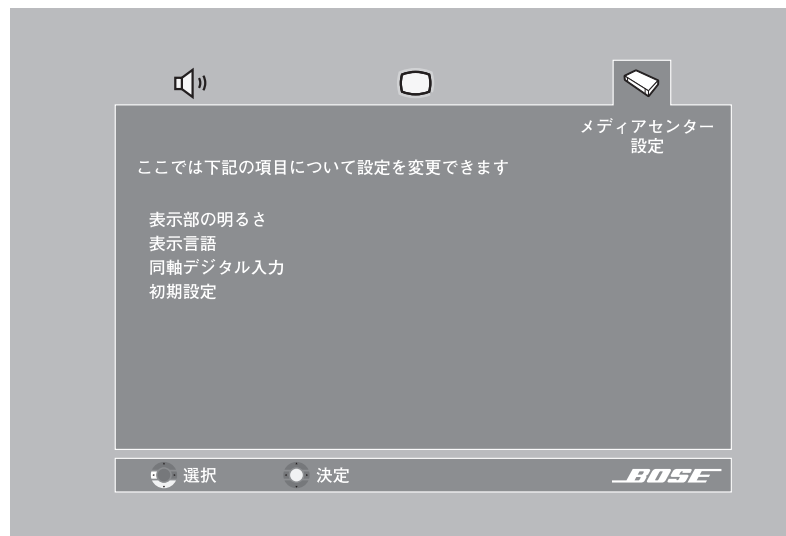
音声設定

項　目	設　定	デフォルト	内　容
低音部補正	−14〜+14 (−6〜+9)※	0	低音部のレベルを調節します。低音の量を減らすには低い値に低音の量を増やすには高い値に設定します。
高音部補正	−14〜+14 (−6〜+9)※	0	高音部のレベルを調節します。高音の量を減らすには低い値に高音の量を増やすには高い値に設定します。
音声信号調整	自動、調整可	自動	ソースに合わせた音声信号調整の方法を選択します。**[調整可]**にすると**[フィルムEQ] [D.R.C.] [モノデコーディング]**の設定をユーザー自身で変更出来ます。
テレビアナログ入力 テレビデジタル入力 DVDアナログ入力 DVDデジタル入力 ビデオアナログ入力 ビデオデジタル入力 チューナーアナログ入力 チューナーデジタル入力 外部アナログ入力 外部デジタル入力	+3、+6、標準、 −3、−6	標準	他のソースとのバランスがとれるように各ソースからの入力音声信号レベルを調節します。各ソースからの音量が他のソースからの音量に比べて小さいときは高い値に、大きいときは低い値に設定します。
アダプトIQ	切、実行 (入、実行、解除)※	切	ボーズの独自技術でお部屋に合わせた自動音場補正をします。自動音場補正を行うには**[実行]**を選んでリモコンの**[決定]**ボタンを押してください。
チューナー/DVD音声 (HDMI対応テレビ接続時のみ)	ボーズ5.1 TVステレオ	ボーズ5.1	**[チューナー]**又は、**[DVD]**端子にHDMI入力された音声の出力タイプを選択します。 **[TVステレオ]**選択時、本機及び、HDMI出力からステレオ音声(PCM2.0)が再生/出力されます。通常、本機で5.1chサラウンドを聴く場合は、**[ボーズ5.1]**に設定してください。

※アダプトIQによる自動音場補正後。

映像設定

お使いのテレビに合わせて設定を変更できます。

項　目	設　定	デフォルト	内　容
ワイドテレビ接続	実行、中止	実行	本機とワイドテレビの接続設定を行います。ワイド（16:9）テレビと接続されていれば **［実行］** を、そうでない（4:3）テレビと接続されていれば **［中止］** を選びます。
テレビ放送方式	NTSC、PAL	NTSC	通常この設定は変更しないで下さい。 **［NTSC］** は日本や米国などでの標準方式、**［PAL］** はヨーロッパなどでの標準方式です。
ブラックレベル	拡張、標準	拡張	映像のブラックレベルを選びます。日本では多くの場合 **［拡張］** に設定しておくのがよいでしょう。
映像の解像度（HDMI対応テレビ接続時のみ）	調整可、固定	調整可	HDMI接続しているテレビへ出力する映像の解像度を調整するときは **［調整可］** に、しないときには **［固定］** にします。
映像の持続表示	入、切	切	**［DVD/チューナー/ビデオ/外部］** 端子接続機器からの映像を音声のみのソース（ラジオなど）に切換後も表示し続けるには **［入］** にします。
設定メニュー表示	テレビ画面/本体、本体のみ	テレビ画面/本体	設定メニューの表示場所を指定します。テレビ画面に表示させる場合は **［テレビ画面/本体］** に、表示パネルにのみ表示させるときには **［本体のみ］** に設定します。

メディアセンター設定

項　目	設　定	デフォルト	内　容
表示部の明るさ	1〜4	4	表示パネルの表示部の明るさを調節します。**[4]** に設定すると最も明るくなります。
表示言語	日本語、英語	日本語	画面上のメニュー表示は **[日本語]** または **[英語]** でできます。指定した言語でメニュー画面が表示されます。
同軸デジタル入力	なし、TV、VCR、CBL·SAT、AUX	なし	指定したソースに同軸デジタル接続を割り当てます。同軸デジタルで接続したいソースを選んで下さい。
初期設定	実行、中止	中止	工場出荷時の初期設定に戻します。全ての設定を工場出荷時に戻すには **[実行]** を選んで下さい。

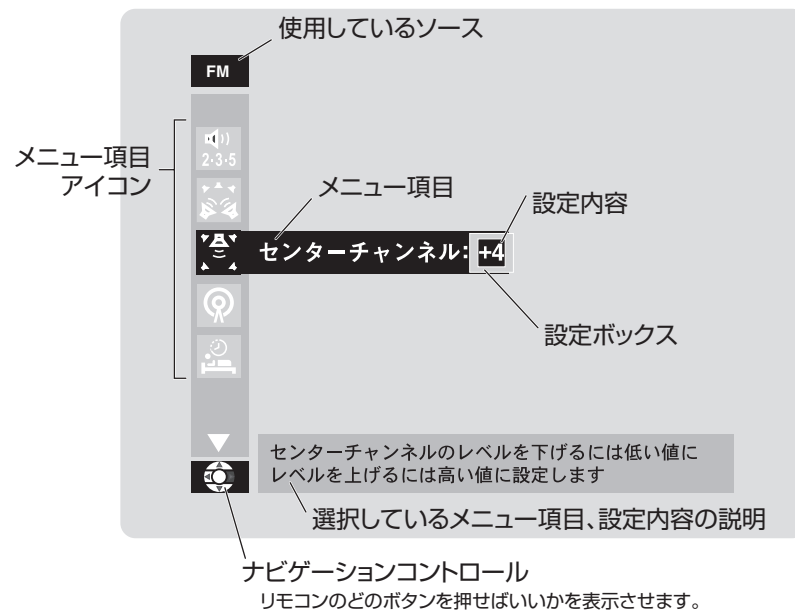
初期設定に戻る項目と初期設定

・音声設定の音声信号調整が [**自動**] に戻ります。
・フィルム EQ※ **[切]** に戻ります。
・D.R.C.※が **[切]** に 戻 り ま す 。
・モノデコーディング※が **[切]** に戻ります。
※音声設定の音声信号調整を **[調整可]** にしないと画面に現れません（30 ページ参照）。

ソース（音源）設定画面を表示するには

ソース（音源）ごとの設定に関しては、リモコンの**設定**ボタンを押してください。
現在の再生モードと関係する項目が表示されます。例えば、FM ラジオモードのときに**設定ボタン**を押せば、下図のような画面になります（ただし、このときテレビの電源を入れてメディアセンターからの映像入力をテレビ側で選択しておく必要があります）。全体のシステムに関する設定は**システムボタン**を押します（29 ページ参照）。

ソース（音源）設定画面をテレビ画面から消すには

リモコンの**終了ボタン**を押してください。

表示パネルの表示例

♪注意：操作に慣れた方であれば、テレビ画面を出さずに表示パネルの表示（ただし英数字表記のみ）を見ながらメニュー項目の設定をしていただいても構いません（31 ページ参照）。

メニュー項目の設定例

♪注意：設定メニューの「サラウンド」「センターチャンネル」「音声遅延」は、あるソースにて設定を行うとその他のソースも同じ設定値が反映されます。
本機と外部機器およびテレビが HDMI 接続されている場合システム設定画面、ソース（音源）設定画面をテレビ画面に表示している間、音声は再生されません。

アイコン	項　目	設　定	デフォルト	内　容
2·3·5	スピーカーモード	2、3、5オーディオ、5ビデオ（チューナー、DVD、テレビ、ビデオ、外部）2、3、5(FM/AM)	5ビデオ（チューナー、DVD、テレビ、ビデオ）5オーディオ（外部）5(FM/AM)	再生スピーカーの数を変更します。「5オーディオ」は、ステレオ音声（音楽CDなど）を最適に5.1chサラウンド再生します。
	サラウンド (5スピーカーモード時に表示)	−10〜+6	0	サラウンドのレベルを下げるには低い値に、サラウンドのレベルを上げるには高い値に設定します。
	センターチャンネル（3または5スピーカーモード時に表示）	−8〜+8	0	センターチャンネルのレベルを下げるには低い値に、レベルを上げるには高い値に設定します。
	音声遅延（FM/AM時には表示されません）	0〜8	2	音声の遅延時間を調整します。映像の動きがセリフなどの音声より遅れている場合、音声を遅延させることで映像の動きと音声を合わせます。
	フィルムEQ※1（FM/AM時には表示されません）	入、切	切	映画用に音質バランスを最適化する時は【入】にします。
	D.R.C.※1（FM/AM時には表示されません）	入、切	切	D.R.C.を【入】にすると音量を絞っていても台詞が聴き取りやすくなります。
	モノデコーディング※1（FM/AM時には表示されません）	入、切	切	モノラル音声をマルチチャンネルで再生するときには【入】にします。
	映像の解像度※2（本機とテレビがHDMI接続されている場合に表示）	1080p、1080i、720p、480/576p	720p又は480/576p	HDMI映像出力する際の解像度を設定します。HDMI映像出力したテレビが720p以上のHD映像を受像可能な時、720pがデフォルト値となり、720p以上のHD映像を受信できない場合は、480/576pがデフォルト値となります。
	イメージビュー（本機とテレビがHDMI接続されている場合に表示）	標準、ズーム、ストレッチ、グレイバー	標準	外部機器から入力された映像の見え方を調整します。映像設定のワイドテレビ接続を実行にするとこの項目の設定が可能になります（31ページ参照）。

アイコン	項　目	設　定	デフォルト	内　容
	オーディオ1+1※3	1、2、両方	両方	1+1（デュアルモノ）音声チャンネルのうちチャンネル1、チャンネル2、両方のいずれかを選びます。
	SDプログレッシブスキャン(テレビにコンポーネントケーブルで接続しているときに表示)	入、切	切	SDプログレッシブスキャン対応テレビと接続する場合にのみ**[入]**に設定してください。
	スリープタイマー	切、10〜90（10分ごと）	切	タイマー設定時間経過後本機の電源を切ります。**[切]**にするとタイマーは働きません。
	モード切替（FMのみ）	自動、ステレオ、モノラル	自動	ステレオ放送をモノラルあるいはステレオのどちらかで聴くかを選びます。

※1 音声設定の音声信号調整を**[調整可]**にするとこれらの項目の設定が可能になります（30ページ参照）。
※2 映像設定の映像の解像度を**[調整可]**にするとこれらの項目の設定が可能になります（31ページ参照）。
※3 DVD音声や外部からのデジタル音声入力にドルビーデジタル1+1信号やAACの音声多重信号が入力されたとき、この項目の設定が可能になります。チャンネル1（主音声）、チャンネル2（副音声）、両方同時のいずれかを選びます。

テレビの画面でシステム設定ができない場合

テレビ放送方式設定（システム設定）や SD プログレッシブスキャン設定（ソース設定）が不適切な設定になってしまうと、テレビの画面に映像を映すことができなくなり、オンスクリーンディスプレイでの操作ができなくなってしまう場合があります。
このような場合は、表示パネルを使って設定を修正することができます。

1. 表示パネルの**電源ボタン**を押してシステムの電源を切ります (メディアセンターの電源は抜かないでください)。
2. 表示パネルの**消音ボタン**を押したまま、**電源ボタン**を短く 2 回押して、表示パネルの上段に Video: と表示させます (下段はなんでもかまいません)。表示されたら、いったん指を離します。
3. 表示パネルの**音量ボタン**を押してテレビとメディアセンターの映像接続方法に合わせて設定を変更します。

●映像ケーブル (黄色のピンケーブル) または、S 映像ケーブルを接続している場合

Video:
NTSC INTERLACED

を選びます。

● HDMI/ コンポーネント映像ケーブルで接続している場合

テレビがプログレッシブスキャン非対応※の場合は

Video:
NTSC INTERLACED

を選びます。

テレビがプログレッシブスキャン対応※の場合は

Video:
NTSC PROGRESSIVE

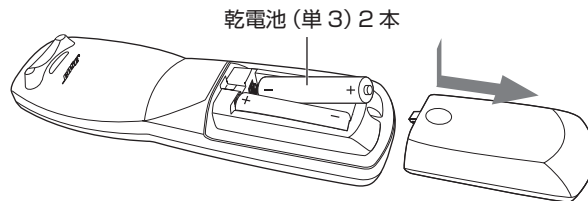
を選びます。

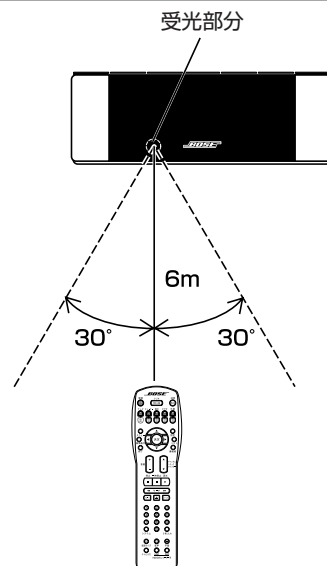
4. 表示パネルの**電源ボタン**を押して終了します。
5. 表示パネルの**電源ボタン**を押して電源を入れ、リモコンの**システムボタン**または、**設定ボタン**を押し、各設定を確認、調整しなおしてください（29 〜 35 ページ参照)。

※お使いのテレビがプログレッシブスキャン対応かどうかはテレビの取扱説明書をご覧ください。

リモコンの電池の入れかた

1. リモコンを裏返しにしてバッテリーカバーを下に押し込みながら引き出すように電池ボックスを開けます。
2. ボックス内の表示に合わせて乾電池（単三型２本）を入れてください。
3. スライドさせるようにしてバッテリーカバーを閉めてください。

⚠ 注意：付属の乾電池は動作チェック用として同梱してあります。新品の乾電池よりは使用期間が短くなりますので、およそ１年後を目安に、新しい乾電池と交換してください。

⚠ 電池についての注意

・指定以外の電池を使用しないでください。
・乾電池の⊕と⊖をショートさせないでください。
・乾電池の⊕と⊖の向きを電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。
・電池を加熱しないでください。
・分解しないでください。
・火や水の中に入れないでください。
・新しい乾電池と古い乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
・乾電池は絶対に充電しないでください。
・長い間（1ヶ月以上）リモコンを使用しないときは、乾電池をリモコンから取り出しておいてください。
・液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
・万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

⚠ 使用上の注意

・表示パネルの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコンの操作ができないことがあります。
・本機のリモコンを操作すると、赤外線により コントロールする他の機器を誤動作させることがありますので、ご注意ください。
・リモコンと表示パネルの受光部の間に障害物があったり、受光部との角度が悪いとリモコン操作ができないことがあります。

電池の交換時期について

リモコンの電池が消耗すると、リモコンの動作範囲が狭まってきて効きが悪くなってきます。このような症状が出てきたらリモコンの乾電池を２本とも新しい乾電池に交換してください。新品のアルカリ電池を使用すれば通常約２年程ご使用いただけます。

Lifestyle® V20/V30 システムのお手入れについて

・汚れやほこりは柔らかい布でから拭きしてください。
・汚れがひどい時は、中性洗剤を薄めた水に柔らかい布を浸し、堅く絞って拭きとってから、柔らかい布でから拭きしてください。
・シンナー、ベンジン、アルコール類などの揮発性の薬品やその他化学物質、クレンザーなどで製品をふかないでください。破損、変質、変色、塗料のはがれや表面に傷を付ける原因となります。またスプレー式の殺虫剤や消臭剤､芳香剤などもかからないようにご注意ください。
・どの開口部からも液体が入らない様にご注意ください。
・スピーカーのグリルの部分を掃除するときは、掃除機を使って傷つけないように弱い吸引力で注意深く吸い取ってください。

故障かな？と思ったら

問　　題	対　　　　　　応
LEDが点灯しない、電源が入らない	• アクースティマスモジュールおよびメディアセンター用ACアダプターにACケーブルが確実に差し込まれており、ACプラグが確実にコンセントに差し込まれていることを確認してください。 • アクースティマスモジュールの接続ケーブルが､メディアセンター背面のベースモジュール端子に確実に差し込まれていることを確認してください。 • 表示パネルの接続ケーブルが､メディアセンター背面の表示部端子に確実に差し込まれていることを確認してください。 • 表示パネル左上にある**電源On/Offボタン**を､確実に押してください。 • リモコンの左上隅にある**電源On/Offボタン**を､確実に押してください。 • ACプラグをコンセントから抜いて､約1分以上放置して､もう一度電源を入れ直してください。
音声が出ない	• メディアセンター･アクースティマスモジュール接続ケーブルがメディアセンター背面の"ベースモジュール"と記載されている端子に接続されおり､その反対側がアクースティマスモジュールにしっかり接続されていることを確認してください。 • ACプラグをコンセントから抜いて､約1分以上放置して､もう一度電源を入れ直してください。 • 外部の機器との接続を確認してください。希望する音源に対して適切な入力端子を選択しているか確認してください。 • スピーカーケーブルの接続をチェックしてください。 • ボリュームを上げてみてください。 • ミュートがかかっている場合は､リモコン(又は表示パネル)の**[消音]muteボタン**を押しミュートを解除してください。 • テレビの音声出力端子から音声信号が出力される設定になっていることを確認してください。 • テレビの音声出力が可変の場合は､固定に設定を替えるか､テレビの内蔵スピーカーから音が出ないように設定して､テレビのボリュームを上げてください。テレビの取扱説明書をご参照ください。 • FM/AMアンテナが正しく接続されていることを確認してください。 • 本機と外部機器及びテレビがHDMI接続している場合､システム設定画面/ソース(音源)設定画面をテレビに表示している間､本機から音声は再生されません。リモコンの**[終了]ボタン**を押して､設定画面を終了してください。なおシステム設定により､ソース設定表示を表示パネル上のみに行うことができます（31ページ参照）。 • 本機と外部機器及びテレビがHDMI接続している場合､テレビの電源がオフ又はスタンバイの状態ではHDMI入力された音源ソース([DVD]端子又は[チューナー]端子)の音声は､本機から再生されません。外部機器の音声のみ（CD再生など)を聴く場合には､デジタル音声又はアナログ音声接続を用いて外部機器を本機に接続してください。 • 本機と外部機器及びテレビがHDMI接続している場合､本機を接続しているテレビの入力が正しく選択されていないとHDMI入力された音源ソース([DVD]端子又は[チューナー]端子)の音声は､本機から再生されません。外部機器の音声のみ（CD再生など)を聴く場合には､デジタル音声又はアナログ音声接続を用いて外部機器を本機に接続してください。 • 外部機器から本機が対応していないデジタル音声信号が供給されている可能性があります。本機が対応する音声フォーマットを供給してください。外部機器の取扱説明書をご参照ください。 • 割当用の同軸デジタル音声入力をお使いの場合､システム設定で割当てる入力端子を指定してください（32ページ参照）。

音が歪んでいる	• スピーカーケーブルに損傷したところがないか確認してください。 • 外部機器からの音声出力が大きすぎないか確認してください。 • 外部ソース毎に音の大きさがばらつく場合は、システム設定メニューの音声設定でソース毎に「入力レベル」を調節してください（30ページ参照）。
センタースピーカーから音が出ない	• センタースピーカーが間違いなく接続されているか確認してください。 • スピーカーモードが3又は5が選ばれていることを確認してください（34ページ参照）。 • 各ソース（音源）の設定画面"センターチャンネル"の項目を選び、音量を調節してください（34ページ参照）。
センタースピーカーからの音が大きすぎる	• 各ソース（音源）の設定画面 "センターチャンネル" の項目を選び、音量を調節してください（34ページ参照）。
サラウンドスピーカーから音が出ない	• すべてのスピーカーが結線に間違いがないか確認してください。 • 5スピーカーモードが選択されていることを確認してください。ステレオ音声（音楽CDなど）再生時は、「5オーディオ」に設定してみてください（34ページ参照）。 • 各ソース（音源）の設定画面 "サラウンド" の項目を選び、音量を調節してください（34ページ参照）。
サラウンドスピーカーからの音が大きすぎる	• 各ソース（音源）の設定画面 "サラウンド" の項目を選び、音量を調節してください（34ページ参照）。
ラジオが動作しない	• アンテナが正しく接続されていることを確認してください。 • アンテナの位置を調節して、受信状態を改善してください。 • 信号が弱い地域の可能性があります。 • AMアンテナを本機からもっと離してみてください。 • FMの場合、テレビのアンテナ信号を分配器を使って分配してみてください。
FMサウンドが歪んでいる	• アンテナの位置や向きを調節してください。
画像がでない	• テレビの電源が入っているか確認してください。テレビの取扱説明書をご参照ください。 • 本機の電源が入っているか確認してください。 • 本機の映像出力がテレビの映像入力に確実に接続されているか確認してください。テレビの取扱説明書をご参照ください。 • テレビ側の映像入力が適正に選択されているか確認してください。テレビの取扱説明書をご参照ください。 • "テレビの画面でシステム設定ができない場合" （36ページ参照）の設定を行い適切な映像接続を選択してください。 • 本機とテレビをHDMIで接続している場合、コンポーネント/コンポジット/S映像出力からは映像信号は出力されません。 • 本機とテレビをコンポーネント映像で接続している場合、コンポジット/映像出力からは映像信号は出力されません。 • DVDプレーヤーからの映像の場合には、テレビとDVDプレーヤーの間に他の機器が接続されていないこと※を確認してください。 ※途中に別の機器(ビデオデッキなど)をつなぐと映像が正しく出ない場合があります。 • 映像ケーブルを交換してみてください。

音声と映像が出ない	• 希望する音源に対して適切な入力端子を選択しているか確認してください。 • 本機と外部機器がHDMIで接続されている場合は、テレビと本機はHDMIケーブルで接続されている必要があります。 • 市販のHDMIケーブルを使用する場合、HDMI規格に準拠したものをご使用ください。HDMIケーブルを延長したり、切替器等を外部機器と本機の間に接続して使用された場合、正しく動作しないことがあります。 • 外部機器の操作、音声·映像の再生が正常に行われていることをご確認ください。外部機器の取扱説明書をご参照ください。 • 本機では再生できない音声·映像信号が外部機器から供給されている可能性があります。外部機器の取扱説明書をご参照ください。 • HDMI接続した外部機器がHDCP(High-bandwidth Digital Content Protection、デジタル音声·映像信号の著作権保護技術)未対応である場合、音声や映像は出力されません。 • ACプラグをコンセントから抜いて、約1分以上放置して、もう一度電源を入れ直してください。 • 本機と外部機器及びテレビがHDMI接続されている場合は、コンポーネント映像接続および光デジタル音声接続に替えてお試しください。
画面が乱れる、あるいは白黒になっている	• システム設定画面の"映像設定"で"テレビ放送方式"に[NTSC]が選択されていることを確認してください(31ページ参照)。
音声は聞こえるが、映像が映らない	• テレビの電源が入っていることを確認してください。 • 本機の映像出力が接続されているテレビの映像入力が正しく選択されているか確認してください。 • DVDプレーヤーからの映像の場合には、テレビとDVDプレーヤーの間に他の機器が接続されていないこと※を確認してください。 ※途中に別の機器(ビデオデッキなど)をつなぐと映像が正しく出ない場合があります。 • 映像ケーブルを交換してみてください。
テレビから音が出る	• テレビの内蔵スピーカーから音が出ないように設定してください。 • テレビの内蔵スピーカーから音が出ないように設定できない場合には、テレビのボリュームを最小にしてください。 • 本機と外部機器及びテレビがHDMI接続している場合、システム設定の[チューナー/DVD音声]項目を[ボーズ5.1]に設定してください。(30ページ参照)。
リモコンがきかない	• 電池装着および、その極性(＋と－)をチェックしてください(37ページ参照)。 • 新しい電池に交換してみてください。 • リモコンの操作範囲内にて送信部を表示パネル、または、操作したい外部機器のリモコン信号受光部へ確実に向けてください。 • リモコンと表示パネル、または、操作したい外部機器のリモコン信号受光部の間に障害物がないことを確認してください。 • ソースボタンを押したときにボタンが点滅することを確認してください(22ページ参照)。 • リモコンのボタンを押したときに表示パネルの緑色のLEDが点滅することを確認してください。 • お使いの機器の設定コード番号で、より適切なものがある場合があるので別のコード番号をセットしてみてください(20ページ参照)。 • 蛍光灯などからの強い照明や外部機器が発する電波の影響により、リモコンがききづらくなることがあります。必要に応じて表示パネルの設置位置をかえてお試しください。 • リモコンの終了ボタンを一度押した後で、再度操作してみてください。
その他	• 自動的に電源が切れた場合、オフタイマー機能またはオートシャットオフ機能(メディアセンターの電源が入った状態で24時間以上操作が行われないと、自動的に電源が切れる)が動作した可能性があります。再度電源を入れてください。 • 本機から出力されたTVの映像が横に伸びたり画面から欠けたりする場合、ソース設定メニューのイメージビューにて「標準」を選択してください(34ページ参照)。画像の見え方は、テレビや表示映像の画角、機器の設定状態によって変わります。お使いのテレビの取扱説明書をご参照ください。 • リモコンや表示パネル上の操作を受け付けなくなった場合は、メディアセンター用ACアダプターおよびベースモジュールのACケーブルを一旦コンセントから抜き、1分以上放置した後で再びコンセントに差し込んでください。

故障の場合のお問い合わせ先

故障及び修理のお問い合わせ先
　ボーズ株式会社　サービスセンター　　☎ 0120-235-250
　住所 〒206-0035　東京都多摩市唐木田 1-53-9　唐木田センタービル

製品等のお問い合わせ先
　ボーズ株式会社　ユーザーサポートセンター　　☎ 0120-130-168

保証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

設定コード表

下記のメーカー製品であっても、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものもあります。

TV（テレビ）

メーカー	コード
アイワ	11180, 11904, 11910, 11911, 11914, 11976, 11978
Bang & Olufsen	10565, 11620
BenQ	11032, 11315, 11562
Byd:sign	11309, 11311, 11485, 11486
日立	11256, 10156, 10178, 10030, 11145, 10145, 10092, 10508, 10548, 10576, 10578, 10797, 11037, 11045, 11149, 11150, 11156, 11225, 11245, 11378, 11445, 11576, 11691, 11904, 11972, 10009, 10016, 10019, 10027, 10032, 10038, 10039, 10044, 10056, 10109, 10151, 10157, 10163, 10165, 10179, 10186, 10217, 10225, 10381, 10474, 10481
ビクター /JVC	10463, 10053, 10160, 10371, 10508, 10606, 10653, 10683, 10731, 11172, 11253, 11428, 11923, 11973, 10250, 10376, 10650
LG	10060, 10178, 10030, 11758, 11637, 11423, 11378, 11325, 11178, 10856, 10829, 10714, 10700, 10644, 10474, 10442, 10108, 10056, 10038, 10037, 10032, 10019, 10003, 10061
三菱	10154, 10250, 10093, 10236, 10180, 11250, 10150, 10178, 10030, 11917, 11182, 11171, 11150, 10868, 10836, 10817, 10512, 10474, 10381, 10179, 10108, 10056, 10033, 10019
NEC	10154, 10156, 10051, 10053, 10178, 10030, 10474, 10497, 10508, 10704, 10817, 10882, 11150, 11378, 11398, 11456, 11704, 10455, 10381, 10264, 10217, 10186, 10170, 10165, 10056, 10046, 10019, 10009

TV (テレビ)		
	パナソニック / ナショナル	10054, 10250, 10051, 11969, 11968, 11947, 11946, 11941, 11919, 11650, 11480, 11410, 11335, 11310, 11291, 11177, 11175, 11168, 10650, 10508, 10367, 10226, 10208, 10163, 10161, 10055, 10037
	Philips	11454, 10054, 10000, 10051, 10178, 10030, 10092, 11455, 11154, 10774, 10690, 10556, 10554, 10474, 10187
	パイオニア	10166, 10038, 10109, 10163, 10287, 10423, 10679, 10760, 10866, 11260, 11398, 11457
	Polaroid	10765, 12002, 11992, 11991, 11687, 11523, 11498, 11385, 11341, 11328, 11327, 11326, 11316, 11314, 11276 11262, 10865
	Samsung	10154, 10156, 10060, 10812, 10702, 10178, 10030, 10092, 10618, 10644, 10766, 10774, 10814, 10817, 11060, 11150, 11235, 11249, 11312, 11619, 11630, 11903, 10587, 10556, 10474, 10370, 10264, 10226, 10217, 10208, 10179, 10090, 10056, 10039, 10037, 10032, 10019, 10009
	三洋	10154, 10156, 10180, 10145, 11975, 11974, 11276, 11208, 11179, 11154, 11150, 11142, 10893, 10799, 10798, 10508, 10474, 10424, 10381, 10376, 10280, 10264, 10208, 10159, 10157, 10146, 10088
	シャープ	10093, 10030, 11917, 11602, 11393, 11193, 11165, 10851, 10818, 10787, 10720, 10689, 10688, 10650, 10491, 10474, 10386, 10256, 10165, 10157, 10039, 10032, 10009

Device Codes

TV (テレビ)	ソニー	11100, 10000, 11967, 11966, 11965, 11925, 11904, 11751, 11685, 11651, 11505, 11317, 11300, 11167, 10834, 10810, 10650, 10353, 10111, 10080	東芝	10154, 11256, 10156, 10093, 10060, 10145, 11306, 11325, 11343, 11356, 11369, 11456, 11508, 11524, 11635, 11656, 11704, 11918, 11936, 11945, 11970, 11971, 10009, 10035, 10161, 10264, 10381, 10508, 10509, 10618, 10644, 10650, 10718, 10832, 10845, 11150, 11156, 11169, 11173

CBL (ケーブルテレビ ホームターミナル)	DX Antenna	01500, 01502	パイオニア	01877, 00877, 00144, 00533, 00023, 01021, 01500, 01782
	Humax	01813		
	LG	00144, 00040	Samsung	00000, 00144, 00040, 00070, 01666
	Maspro	01510	Scientific Atlanta	01877, 00877, 00477, 00008, 00017, 00277, 01510
	NEC	01496		
	パナソニック / ナショナル	00000, 00008, 00107, 00021, 00040, 00375, 01488, 01938	ソニー	01006, 01460
			東芝	00000, 01509
	Philips	01305, 00317, 00013, 00025, 00031, 00060, 00153, 00242, 00290		

SAT
（デジタルチューナー、衛星チューナーなど）

アイワ	01514, 01515
DirecTV	01377, 00392, 00566, 00639, 01639, 01142, 00247, 00749, 01749, 00724, 00819, 01856, 01076, 01108, 00099, 01109, 01392, 01414, 01442, 01443, 01444, 01609, 01640
DX Antenna	01530
Funai	00338
日立	00819, 00214, 00455, 00489, 00491, 01250, 01284, 01518, 01523, 01525
Humax	01176, 01427, 01670, 01675, 01743, 01790, 01882, 01915
ビクター /JVC	00775, 00492, 01170, 01507, 01531, 01532, 01775, 01793, 01797
LG	00335, 01226, 01414
Maspro	01520, 01530
Matsushita	00214, 00340, 00500
三菱	00749, 00491
NEC	00496, 01270, 01519, 01617
パナソニック / ナショナル	00247, 00701, 00214, 00340, 00500, 00847, 01304, 01404, 01508, 01526, 01527, 01528
Philips	01142, 00749, 01749, 00724, 00856, 01076, 00722, 00099, 00200, 00455, 00853, 00887, 01114, 01442, 01672
パイオニア	00329, 00853, 01308
Samsung	01377, 01276, 01108, 01109, 01442, 01458, 01570, 01609, 01795, 01916
三洋	00493, 01182, 01219
シャープ	00494, 01489, 01513, 01517
ソニー	00639, 01639, 00163, 00196, 00275, 00294, 00847, 01524, 01558, 01640
東芝	00749, 01749, 00790, 00486, 01285, 01501, 01516, 01530
Uniden	00724, 00722, 01521

DVD
(DVDプレーヤー)

Brand	Codes
Bang & Olufsen	21696
Byd:sign	20872
デノン	20490, 20634, 21282, 21634
Funai	20675, 21268, 21334
日立	20573, 20664, 20695, 21247, 21664, 21764, 21765, 21766
ビクター /JVC	10250, 10376, 10650, 20623, 21164, 21241, 21275, 21590, 21591, 21592, 21594, 21597, 21602
LG	20591, 20741, 20801, 20869, 21526, 21600
Marantz	20539, 21627
三菱	21521, 20521, 21403, 21629
Nakamichi	21222
NEC	20785, 20869, 21404
オンキョー	20503, 20627, 20792, 21417, 21418, 21612, 21627
パナソニック / ナショナル	20490, 20632, 20703, 21011, 21282, 21362 21462, 21579, 21632, 21641, 21762
Philips	20503, 20539, 20646, 20675, 20854, 21158, 21260, 21340, 21354, 21506, 21755, 22056 22084, 21269
パイオニア	20525, 20571, 20142, 20631, 20632, 21460, 21531, 21571, 22052
Polaroid	21013, 21061, 21086, 21245, 21261, 21316, 21478, 21480, 21482
Samsung	20490, 20573, 20744, 20199, 20820, 20899, 21044, 21075, 21599, 21635
シャープ	20630, 20675, 20752, 21256, 21419, 21556, 21642
ソニー	20533, 21533, 20864, 21017, 21033, 21069, 21070, 21431, 21432, 21433, 21516, 21536, 21548, 21633

DVD (DVDプレーヤー)	Teac	20571, 20692, 20758, 20759, 20790, 20809, 20833, 21006, 21197, 21483	ビクター /JVC	21241, 21597
			Xbox	20522, 21708
			ヤマハ	20490, 20539, 20545, 21282
	東芝	20503, 20695, 21154, 21503, 21510, 21515, 21588, 21595, 21639, 21769		

BLU-RAY DVD (Blu-ray プレーヤー)	パナソニック / ナショナル	21641
	Philips	22084
	パイオニア	20142, 22052
	Samsung	20199
	ソニー	21516

HD-DVD (HD-DVD プレーヤー)	東芝	21515, 21769

Device Codes

VCR (ビデオデッキ)

ブランド	コード
アイワ	20037, 20000, 20124, 20348, 20352, 20468, 20479, 20742, 21137, 21284, 21291, 21332, 21336
デノン	20042
富士通	20045, 20000, 20052, 20366
Funai	20000, 20593, 21333, 1335, 21593
日立	20037, 20240, 20000, 20042, 20041, 20065, 20082, 20089, 20105, 20140, 20166, 20544, 21037, 21286, 21326 21718
ビクター /JVC	20045, 20067, 20041, 20008, 20207, 20366, 20384, 20486, 21279, 21283, 21299, 21707
LG	20037, 20045, 20042, 20209, 20038, 20051, 20053, 21037, 21137
三菱	20081, 20067, 20043, 20041, 20061, 20075, 20173, 20443, 20807, 21343, 21631
NEC	20035, 20037, 20048, 20104, 20067, 20041, 20038, 20008, 20082, 20370, 21287, 21288
パナソニック / ナショナル	21062, 20035, 20162, 21809, 21808, 21807 21732, 21562, 21393, 21317, 21308, 21293, 21292, 21262, 21244, 21162, 21035, 20837, 20836, 20616, 20614, 20513, 20454, 20378, 20367, 20227, 20226, 20225, 20077
Philips	20035, 20081, 20000, 20062, 20110, 20226, 20384, 20563, 20593, 20618, 20739, 21081, 21181, 21266, 21381
パイオニア	20081, 20042, 20067, 20058, 21337, 21388, 21390, 21803
Samsung	20240, 20045, 20051, 20053, 20210, 20212, 20432, 20739, 20760, 21014
三洋	20047, 20240, 20104, 20046, 20159, 20368, 20369, 21330, 21331

VCR (ビデオデッキ)	シャープ	20048, 20209, 20062, 20363, 20807, 20848, 21048, 21285, 21400, 21742, 21810	東芝	20081, 20045, 20042, 20067, 20043, 20041, 21996, 21972, 21386, 21384, 21325, 21323, 21290, 21289, 21145, 21008, 20845, 20828, 20544, 20384, 20366, 20212, 20210, 20066, 20008
	ソニー	20035, 20032, 20033, 20000, 21972, 21636, 21448, 21447, 21297, 21296, 21295, 21232, 21032, 20640, 20639, 20636, 20586, 20034, 20011		

DVR (HDD レコーダー、DVD レコーダーなど)	ビクター /JVC	21279	シャープ	21742, 21810
	パナソニック / ナショナル	20614, 20616, 21244, 21732, 21807, 21808, 21809	ソニー	20636, 21447, 21448, 21636, 21972
	Philips	20618, 20739	東芝	20828, 21008, 21972, 21996
	パイオニア	21337, 21803	日立	20140, 21718
	Samsung	20739		

DVD-R
(DVDレコーダー)

デノン	20490
Funai	20675, 21334
日立	21664, 21764
JVC	21164, 21275, 21597
LG	20741
三菱	21403, 21629
NEC	21404
パナソニック / ナショナル	20490, 21011, 21579
Philips	20646, 21158, 21340, 21506, 21755
パイオニア	21803, 20631, 21460
Samsung	20490, 21635
三洋	21583
シャープ	21742, 20630, 20675, 21419, 21556, 21642
ソニー	21033, 21069, 21070, 21431, 21432, 21433 21536
東芝	21510, 21639

TV-VCR（複合機器）ビデオデッキ付テレビなど

メーカー	コード	メーカー	コード
Funai	11904, 11913, 11977, 20000, 21333	三洋	11974, 11975, 20240, 21330, 21331
ビクター /JVC	11923, 11973	シャープ	11917, 20807
LG	21037	ソニー	11904, 11925, 11965, 11966, 11967, 20000, 21232, 21295, 21296, 21297
三菱	11150, 11917, 20043, 20807		
パナソニック / ナショナル	11919, 11968, 11969, 20162, 21035, 21162, 21262, 21308, 21317	東芝	11918, 11936, 11970, 11971, 20845, 21145, 21323, 21325
Samsung	20432, 21014		

TV-DVD（複合機器）DVD付テレビなど

メーカー	コード	メーカー	コード
Funai	21268	Philips	20854, 21260
日立	21247	Samsung	20899, 11903
LG	21526	東芝	20695, 11635
パナソニック / ナショナル	11941		

TV-VCR-DVD（複合機器）ビデオ /DVD付テレビ

メーカー	コード
Funai	21334, 21335
パナソニック / ナショナル	21362, 21462, 11946, 11947
シャープ	20630, 11917, 20807
東芝	11945

Device Codes

CBL-DVR（複合機器）

メーカー	コード
Humax	01813
パイオニア	01877, 00877
ソニー	01006

SAT-DVR（複合機器）

メーカー	コード
DirecTV	01377, 00392, 00639, 01142, 01076, 00099, 01392, 01442, 01443, 01444, 01640, 20739 22033
Humax	01176, 01427, 01670, 01675
ビクター /JVC	01170
パナソニック / ナショナル	01304
Philips	01142, 00099, 01442, 20739
Samsung	01442, 20739
シャープ	01489, 21810
ソニー	00639, 01640

VCR-DVD（複合機器）

メーカー	コード
Funai	20000, 21593, 20675
日立	20000, 20664
ビクター /JVC	21707, 21164, 21241, 21602, 21597
LG	21137, 20741, 20869
パナソニック / ナショナル	21562, 20490, 21579, 21762
Philips	20593, 21266, 20675, 21755, 21269
パイオニア	21803, 20631, 21460
Samsung	20744, 20820, 21044, 21075
三洋	20104, 20670
シャープ	20848, 20630, 21419
ソニー	20864, 21033, 21069, 21070, 21431, 21432, 21433
東芝	20503

DVD-DVR（複合機器）DVD プレーヤー HDD/DVD レコーダーなど

メーカー	コード
日立	21764, 21765, 21766, 21718
Humax	21588
LG	20741
三菱	21403
パナソニック / ナショナル	20490, 21011, 21579, 21632, 21732, 21807, 21808, 21809
Philips	20539, 21158, 21340
パイオニア	20631, 21337, 21803
Samsung	21635
シャープ	20630, 21256, 21642, 21742
ソニー	21033, 21536
東芝	21503, 21510, 21588, 21639, 21008, 21996
ビクター /JVC	21597

仕様

● Lifestyle® V20 サテライトスピーカー（防磁型）

外形寸法	78 (W) × 157 (H) × 104 (D) mm
質量	1.1kg(1 本)

● Lifestyle® V30 サテライトスピーカー（防磁型）

外形寸法	57 (W) × 113 (H) × 83 (D) mm
質量	350g (1 本)

● Lifestyle® V20 センタースピーカー（防磁型）

外形寸法	154 (W) × 79 (H) × 104 (D) mm
質量	1.1kg

● Lifestyle® V30 センタースピーカー（防磁型）

外形寸法	141 (W) × 60 (H) × 67 (D) mm
質量	350g

●アクースティマスモジュール（非防磁型）

外形寸法	207 (W)× 334 (H)× 552 (D) mm
質量	12.3kg
電源電圧	AC100V (50/60Hz)
最大消費電力	350W

●表示パネル

外形寸法	219 (W) × 76.5 (H) × 57 (D) mm
質量	0.5kg
ケーブル長さ	3.5m

●メディアセンター

外形寸法	441 (W) × 76 (H) × 201 (D) mm
質量	3.3kg
電源電圧	AC100V (50/60Hz) ※ AC アダプター使用
最大消費電力	66W

<プリアンプ部>

音声入力端子	アナログ, 光デジタル × 各 5 系統 同軸デジタル × 2 系統、HDMI × 2 系統
内蔵音声デコーダー	DTS, Dolby Digital, MPEG-2 AAC, PCM2.0ch
音声出力端子	アナログ× 1, HDMI** × 1
映像入力端子	コンポジット , S 映像 , コンポーネント×各 4 系統 HDMI × 2 系統
映像出力端子	コンポジット , S 映像 , コンポーネント , HDMI × 1 系統
ビデオアップコンバージョン	コンポジット入力→ S 映像出力 コンポジット入力 ,S 映像入力→コンポーネントビデオ出力 コンポジット入力 ,S 映像入力 , コンポーネントビデオ入力→ HDMI 出力

<コンポーネントビデオ>

映像解像度※	480i, 480/576p, 1080i, 720p
SD プログレッシブスキャン	480i → 480/576p

＜ HDMI ＞

出力映像解像度	480/576p, 1080i, 720p, 1080p
入力映像解像度	480i, 480/576p, 1080i, 720p, 1080p
入力（オーディオ入力含む）	2 系統
出力※※	1 系統

<チューナー部>

FM 受信周波数	76.0-90.0MHz (100kHz ステップ)
AM 受信周波数	531-1629kHz (9kHz ステップ)

※コンポーネントビデオは、解像度の変換に対応していません。
※※ HDMI 入力された音声のみ出力（音声形式：PCM 2.0）が可能です。

ボーズ株式会社 http://www.bose.co.jp/
〒150-0044 東京都渋谷区円山町28-3 渋谷YTビル 0120-130-168

●仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。

●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。

OM-1387
09・08-0.5K-F・1（I-M）